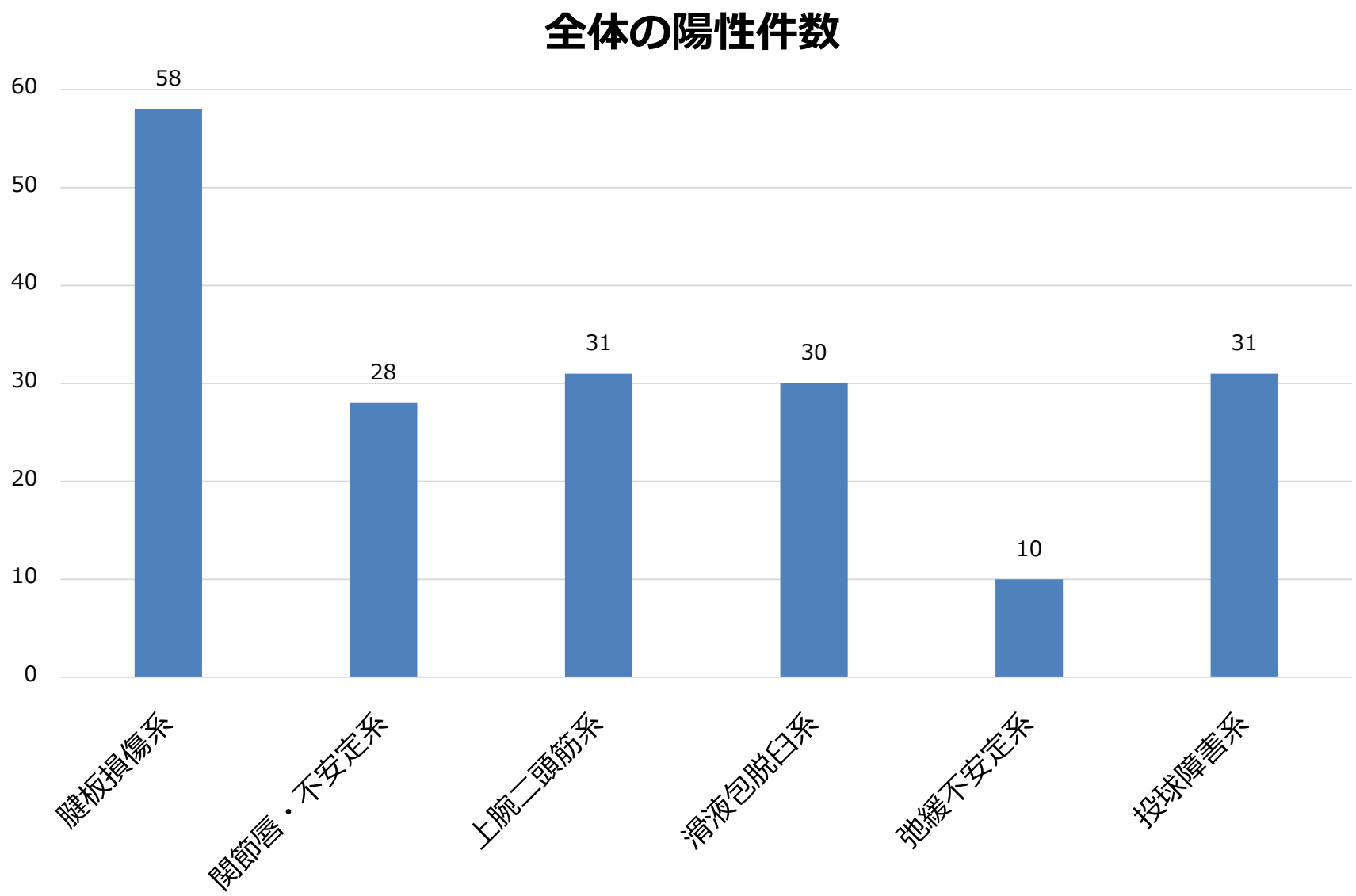
# 『肩関節捻挫』

# 症例収集による解析報告

- 会員の先生方から収集した症例データを基に
肩関節捻挫の原因や病態によって、６つのタイプに
分類し、それぞれを抽出すべく検証を行った。

- 各検査の内容や分類は中間報告を参照
（e-ラーニングサイトに掲載中）

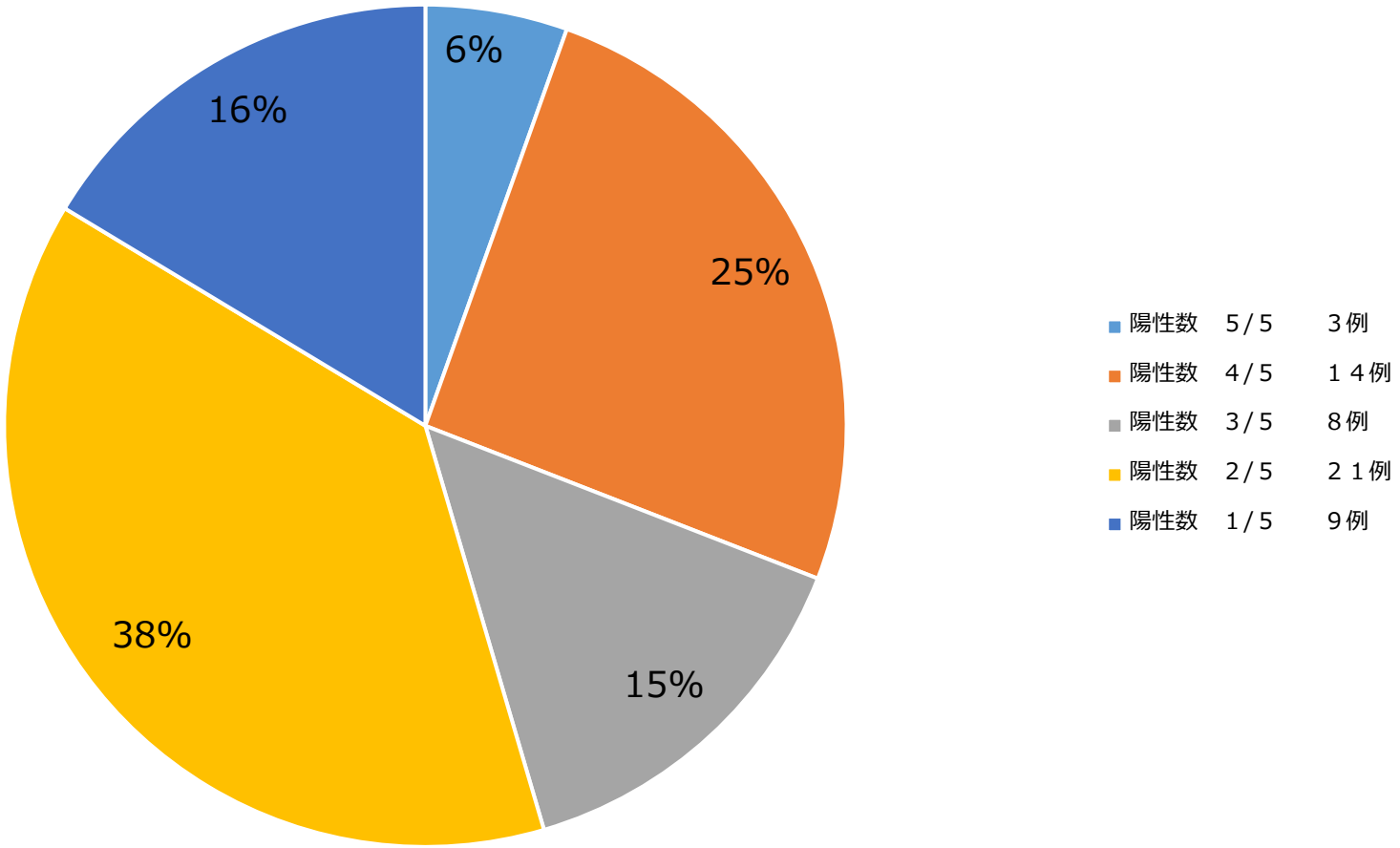
- 今回は、抽出されたそれぞれのタイプの
基本データ（陽性検査数、年代、性別、受傷状況）、
施術方針、復帰、VAS、フォロー期間、
運動休止指導の有無、各データの関係性
を報告する。




- 全81例における各受傷タイプの検査陽性件数

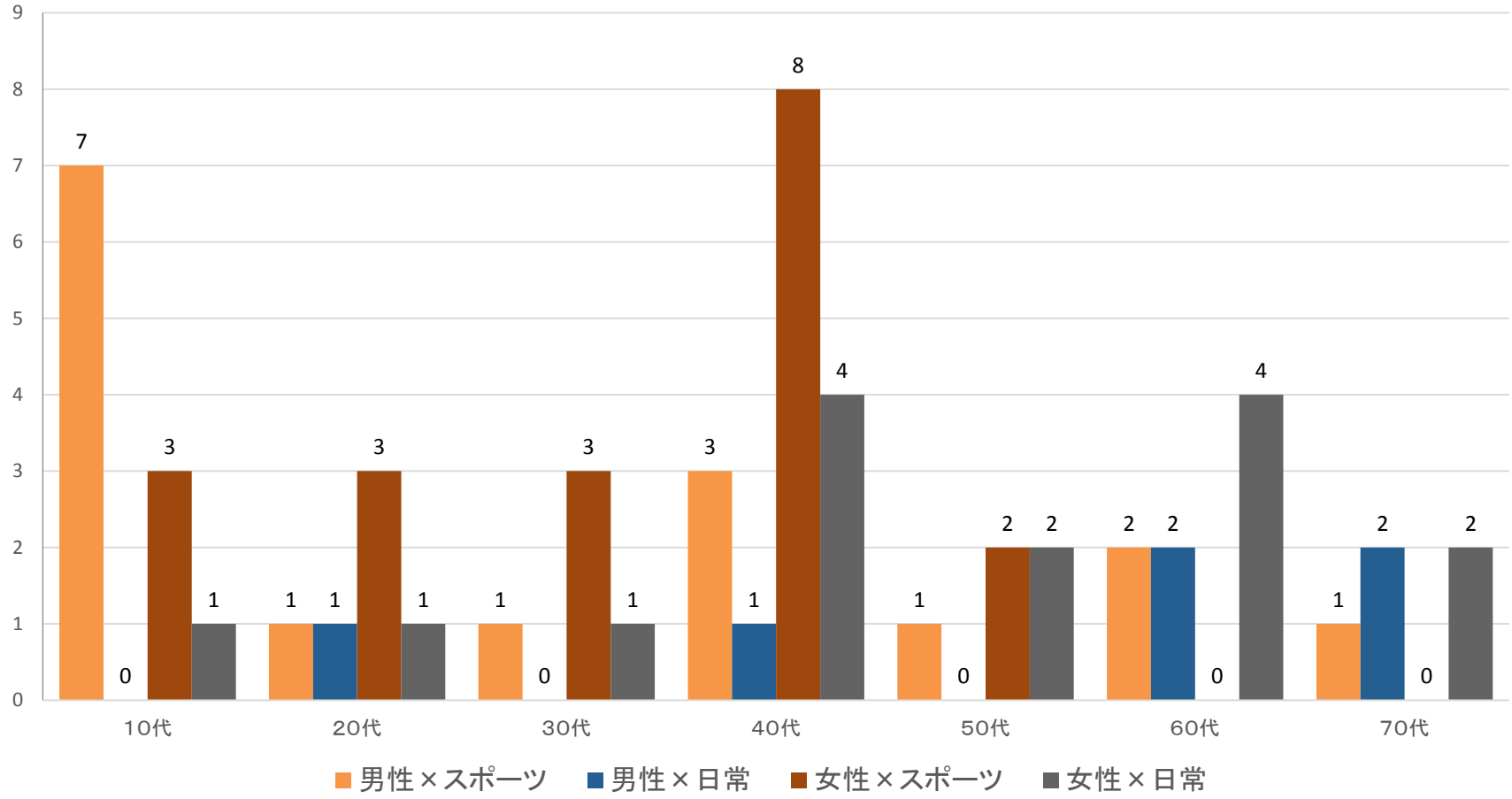
# 腱板損傷系データ

## 腱板損傷系テスト陽性を示した症例　（症例数：58）



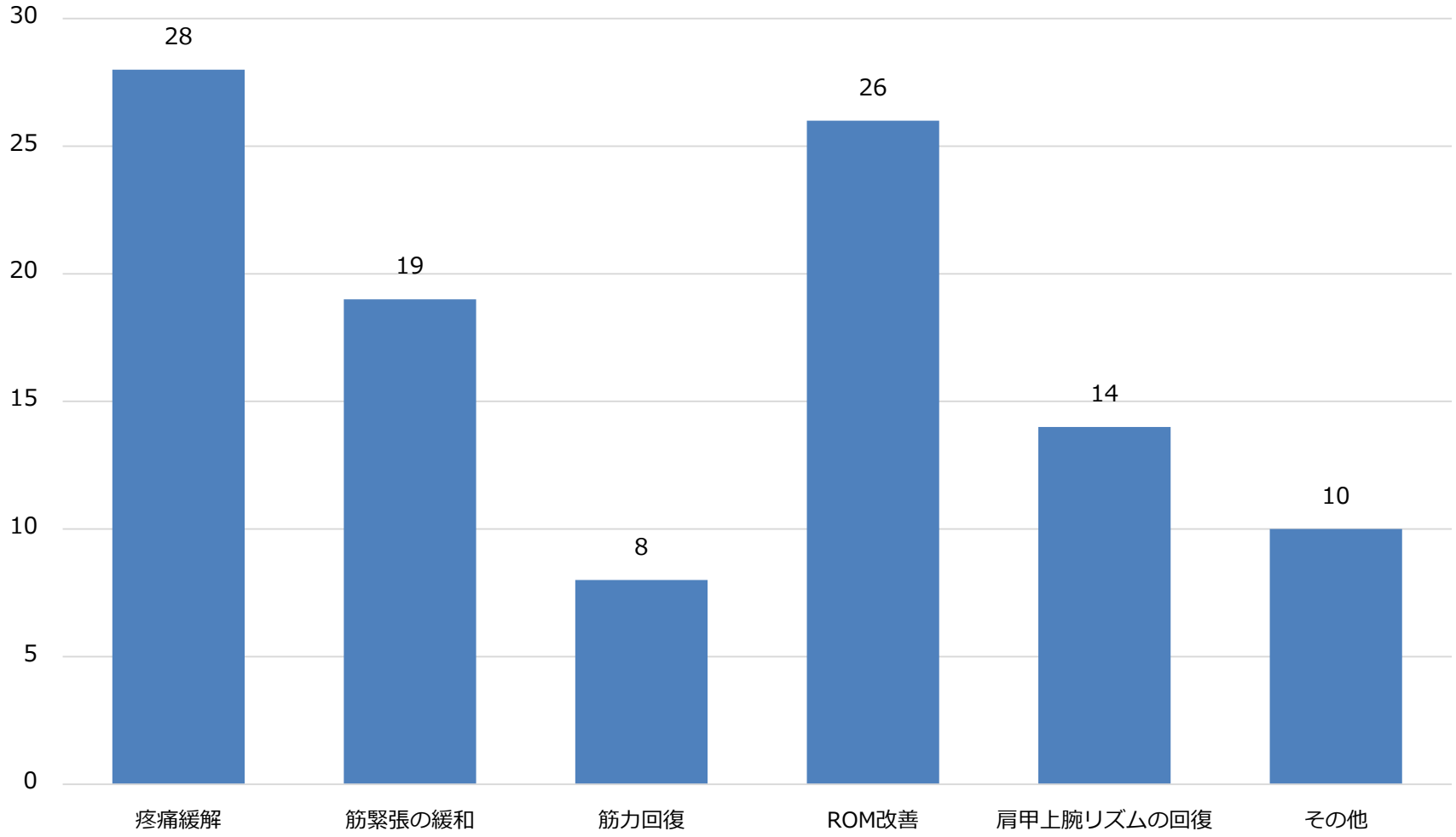

- 腱板損傷テスト陽性を示した58例中、腱板損傷検査5項目のうち、2/5項目で陽性が27%、次いで4/5項目が18%であった

# 腱板損傷系　年代・性別×受傷パターン



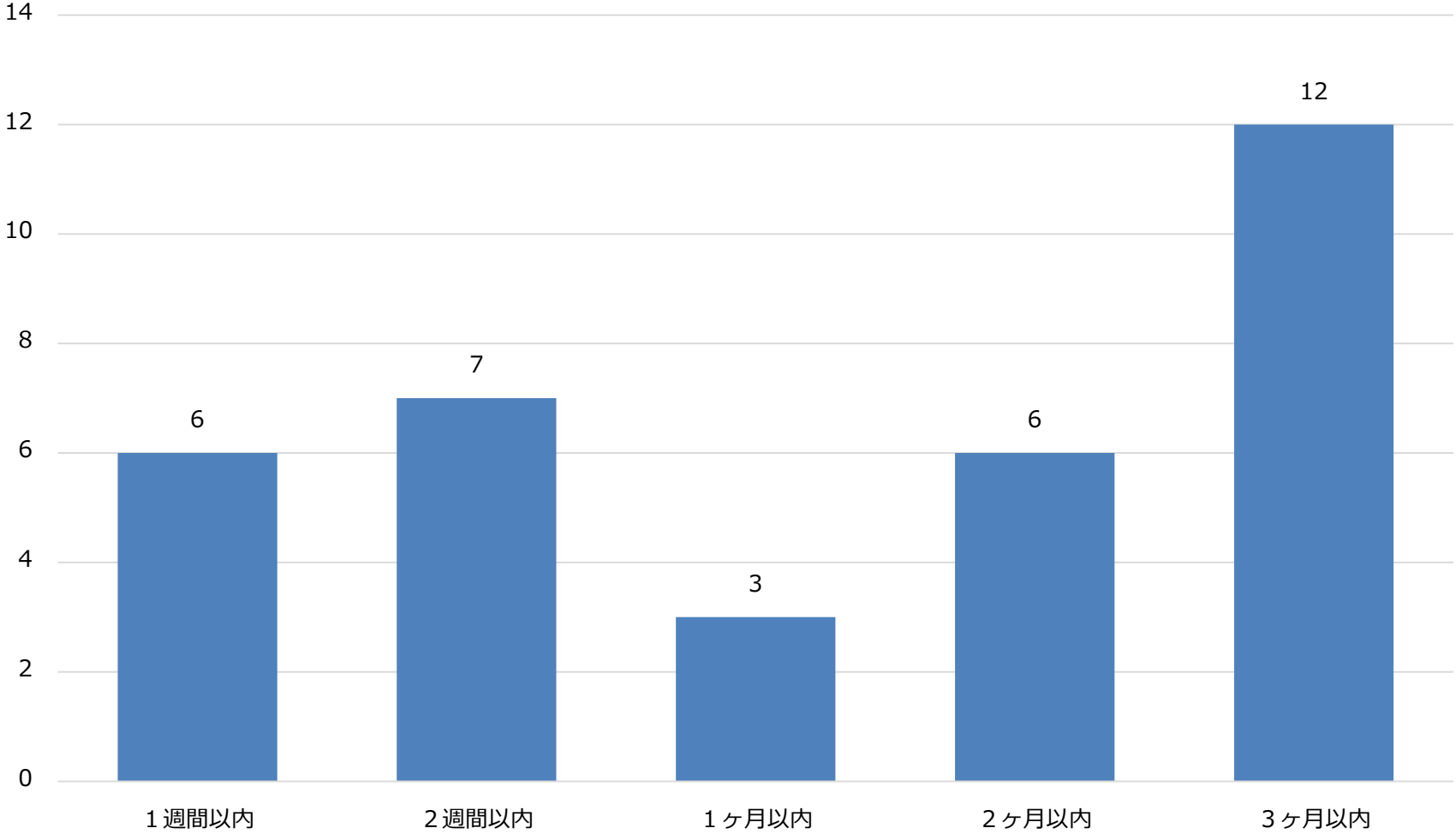

- 年代毎に性別、受傷状況（スポーツ・日常）に分類した。
- 40代女性、10代男性のスポーツ中の受傷が多い。
- 60代以降ではスポーツでの受傷が減少し、日常動作での受傷が目立つ

# 腱板損傷系　施術方針

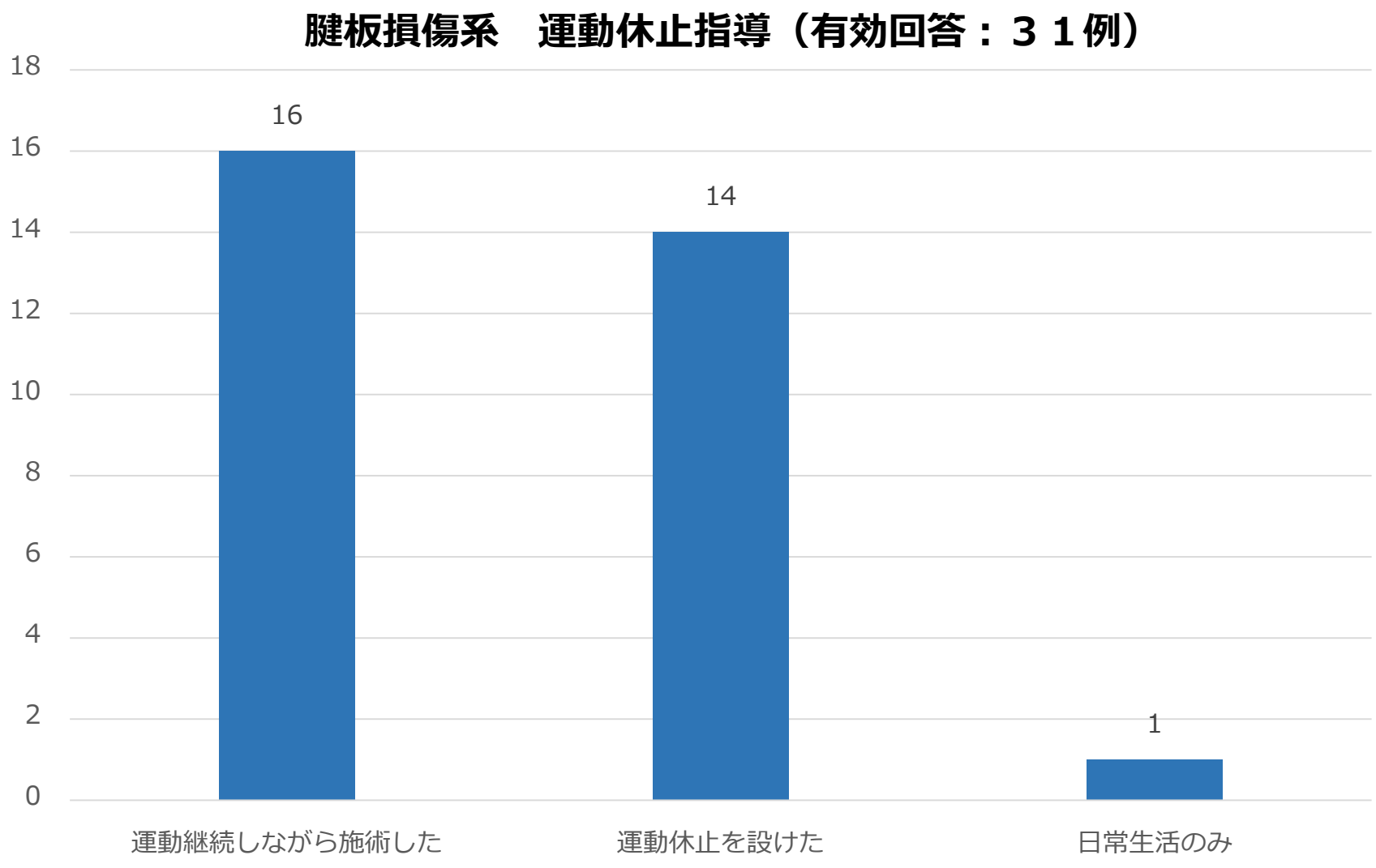


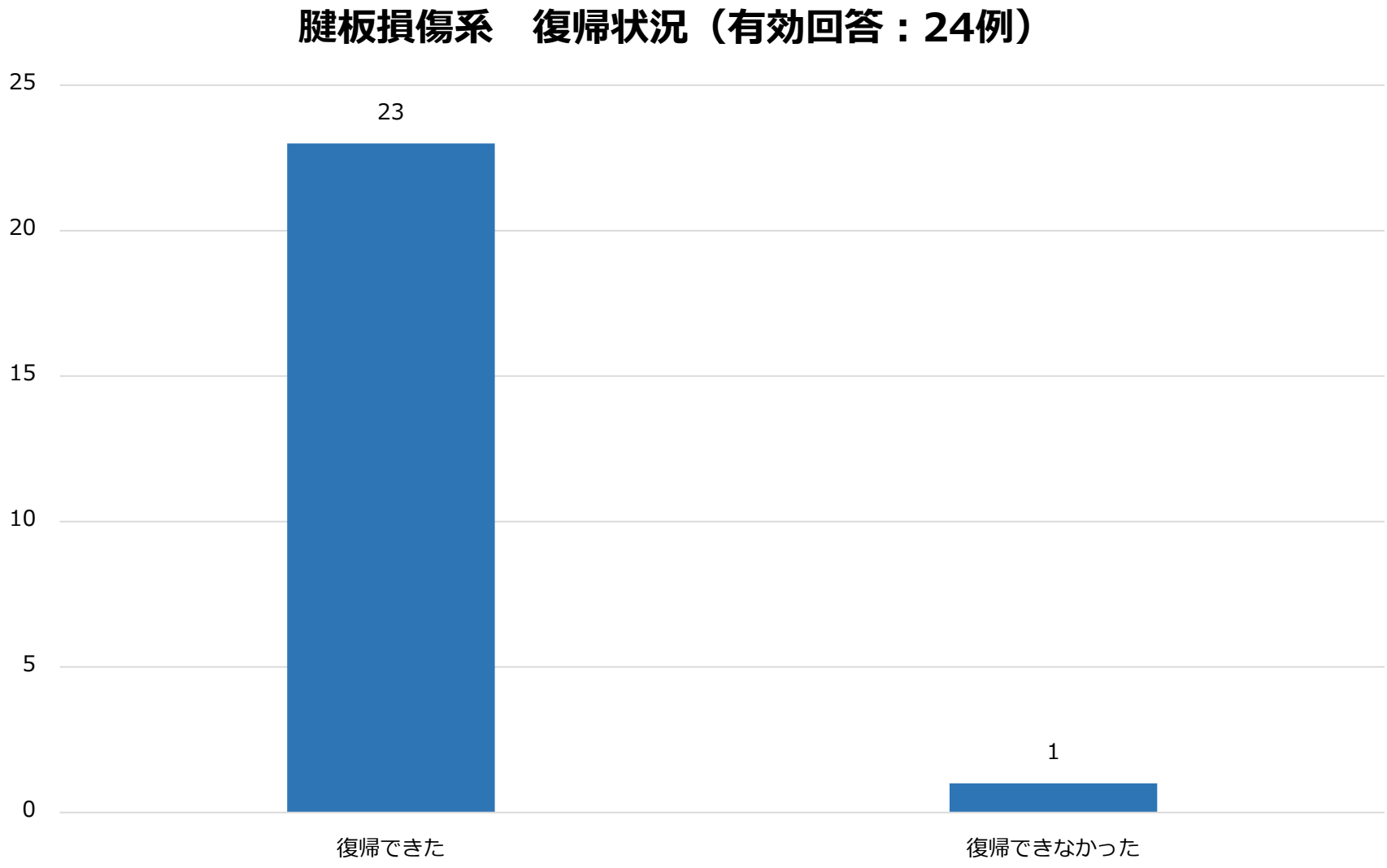

- 腱板損傷検査陽性58例中、回答34例
- 疼痛緩和が第一選択、ROM改善が第二選択となっている。

# 腱板損傷系　フォロー期間 （有効回答：34例）



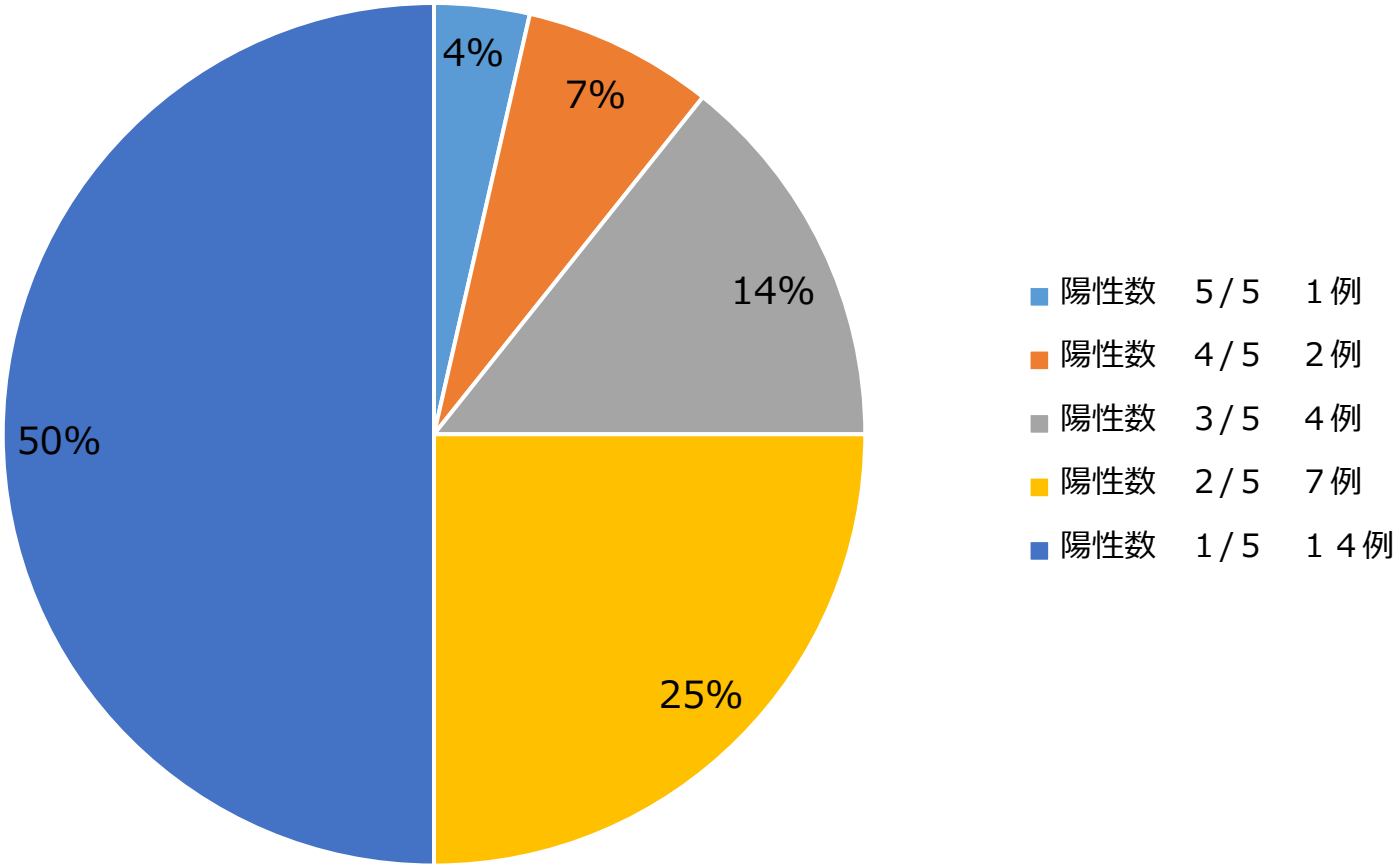

- 月単位でみると1か月以内が16件、次いで3ヶ月以内が12件となっている。


腱板損傷系　運動休止指導（有効回答：３１例）
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
16
14
1
運動継続しながら施術した
運動休止を設けた
日常生活のみ

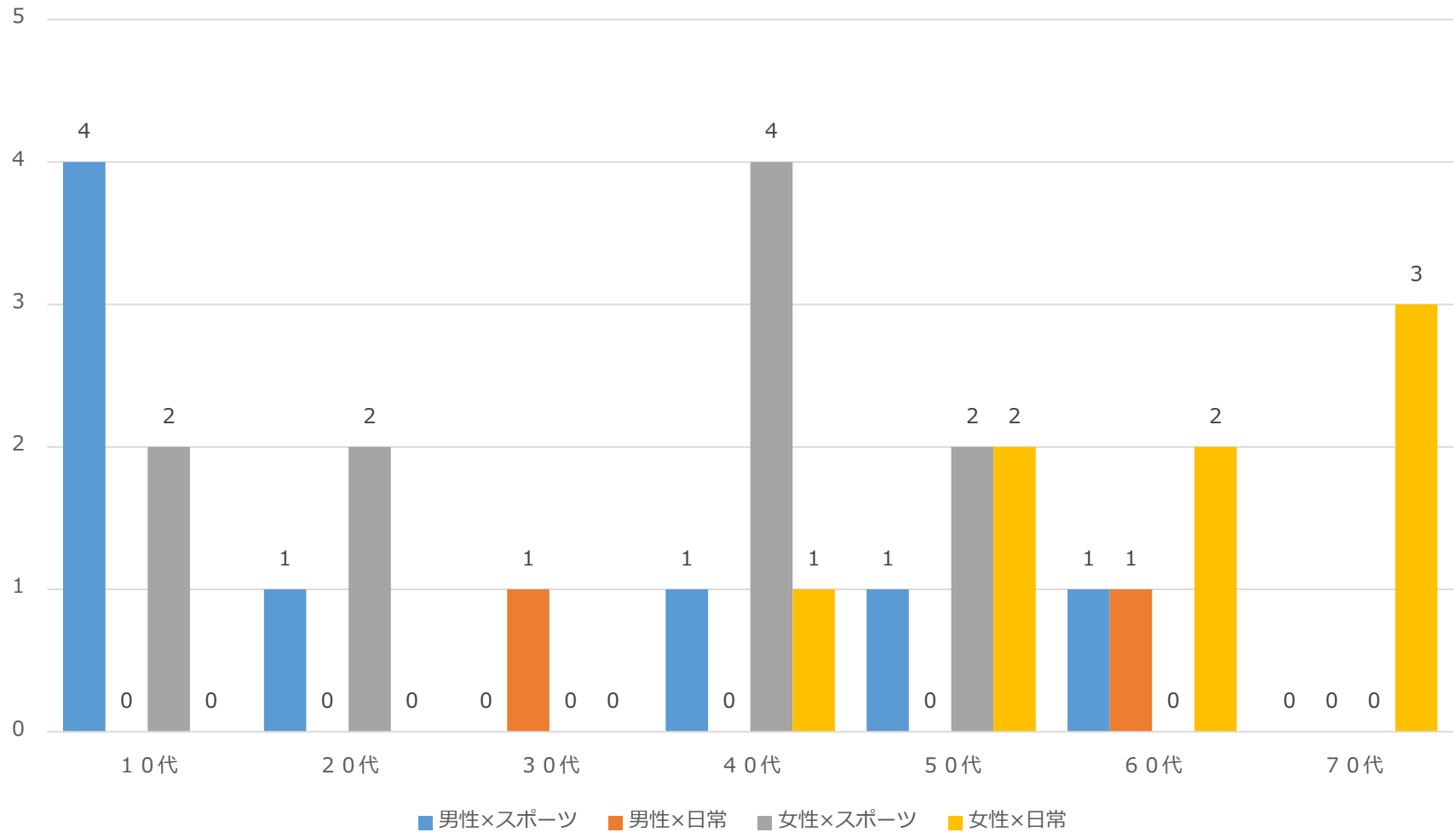

腱板損傷系　復帰状況（有効回答：24例）
25
20
15
10
5
0
23
1
復帰できた
復帰できなかった

# 関節唇・不安定系データ

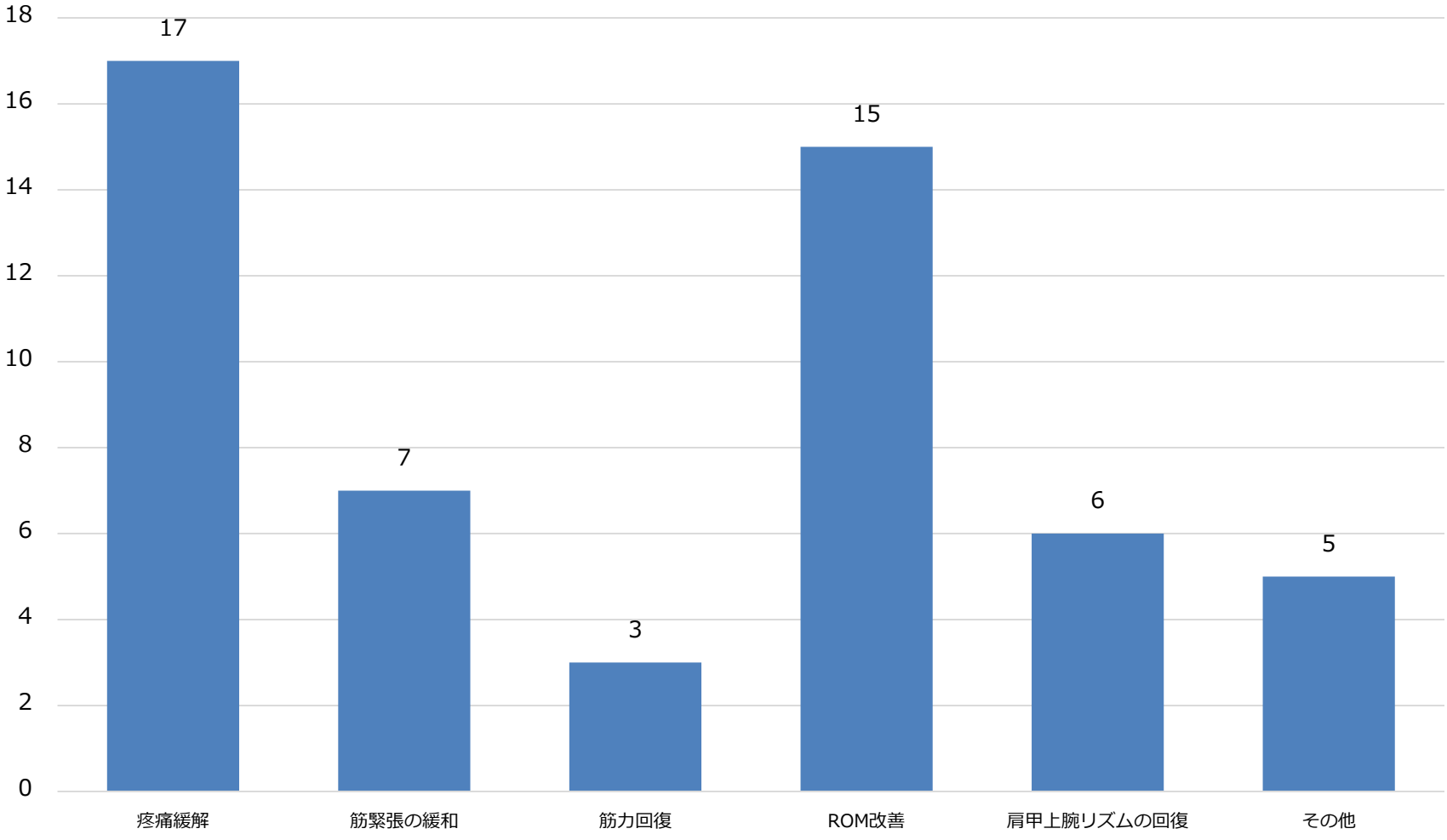
## 関節唇・不安定系テスト陽性を示した症例　（症例数：28）

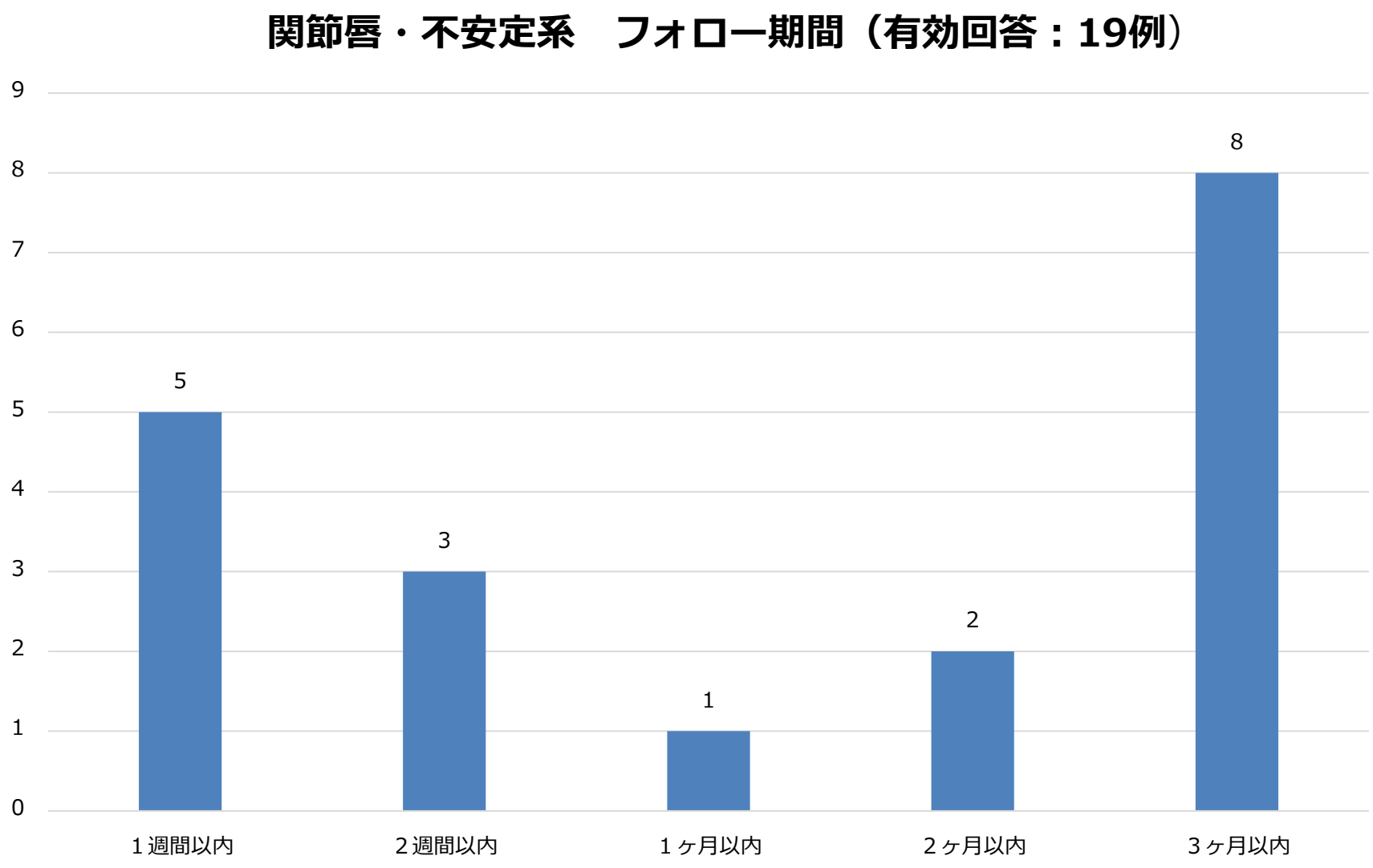


# 関節唇・不安定系　年代・性別×受傷パターン

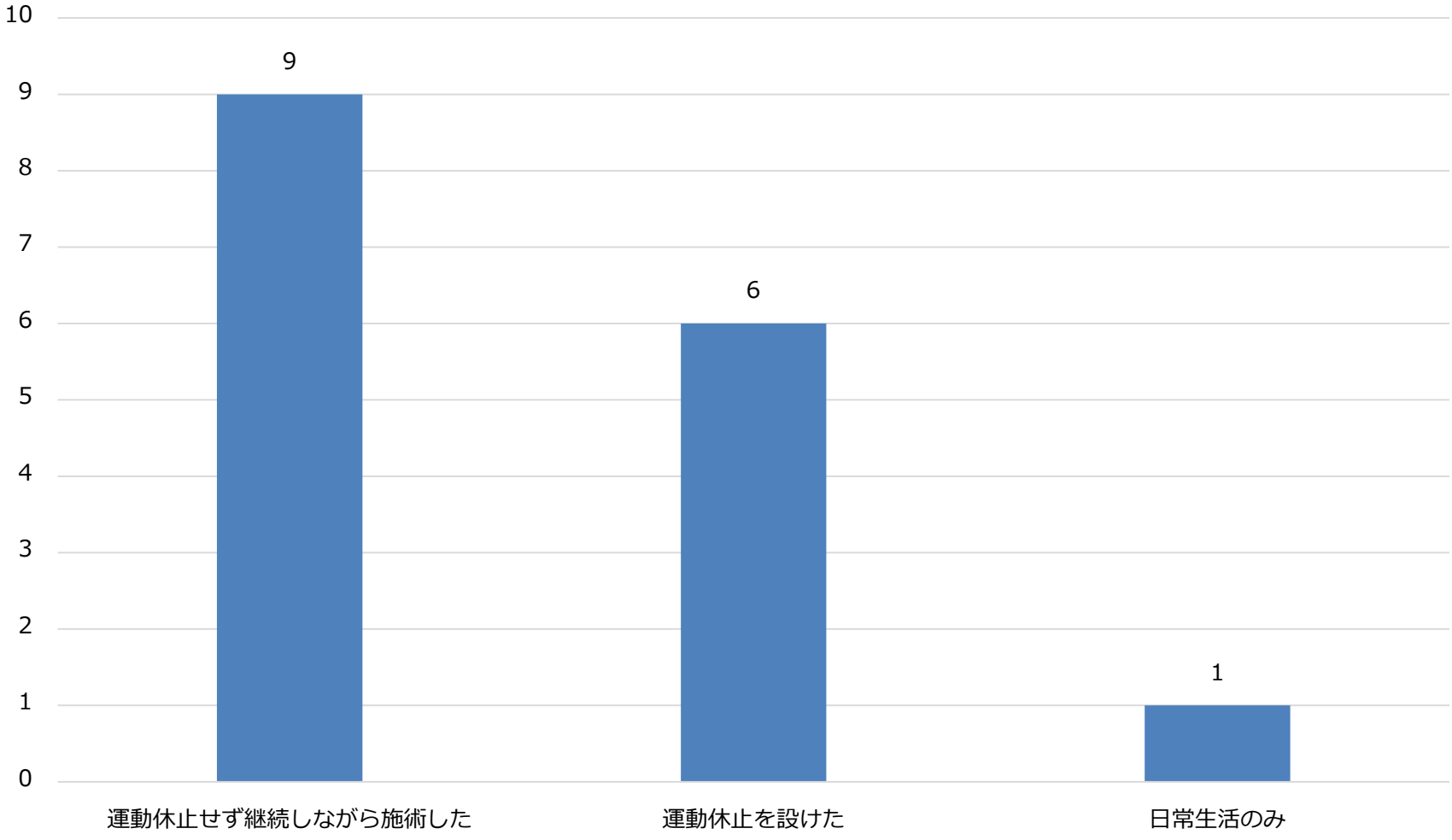


# 関節唇・不安定系　施術方針

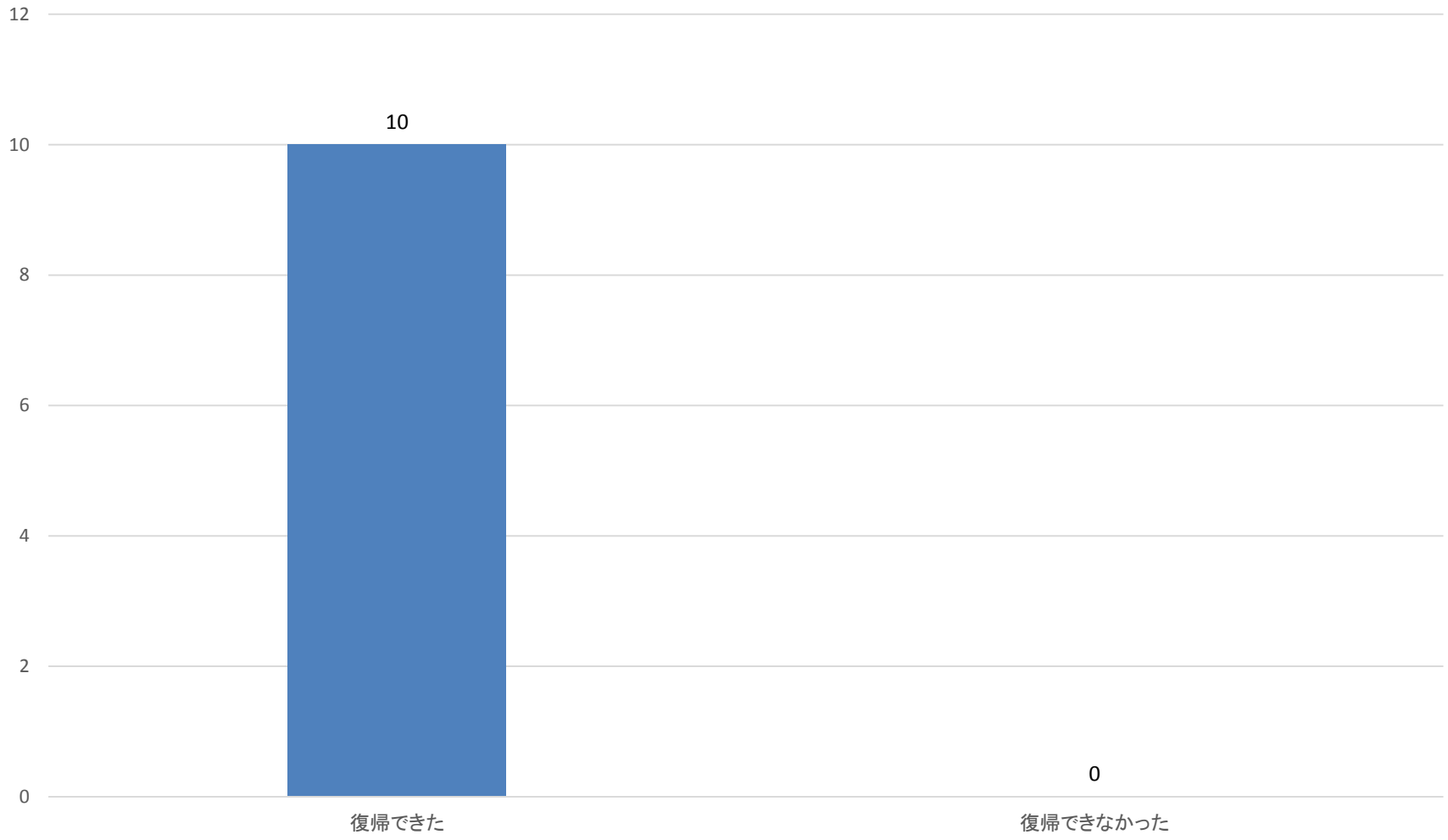



関節唇・不安定系　フォロー期間（有効回答：19例）
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
5
3
1
2
8
１週間以内
２週間以内
１ヶ月以内
２ヶ月以内
３ヶ月以内

# 関節唇・不安定系　運動休止状況（有効回答：16例）

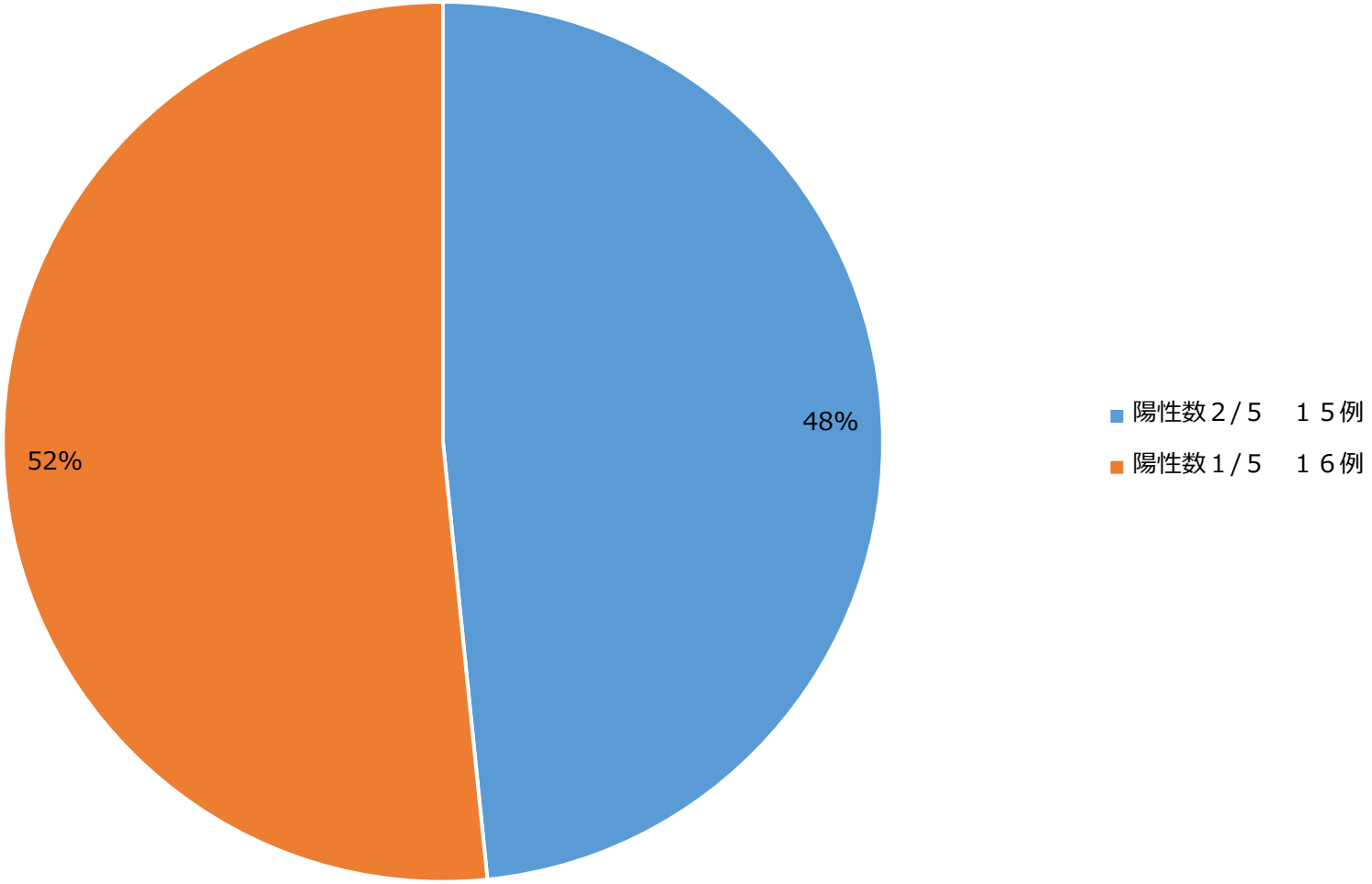


# 関節唇・不安定系　復帰（有効回答：１０例）

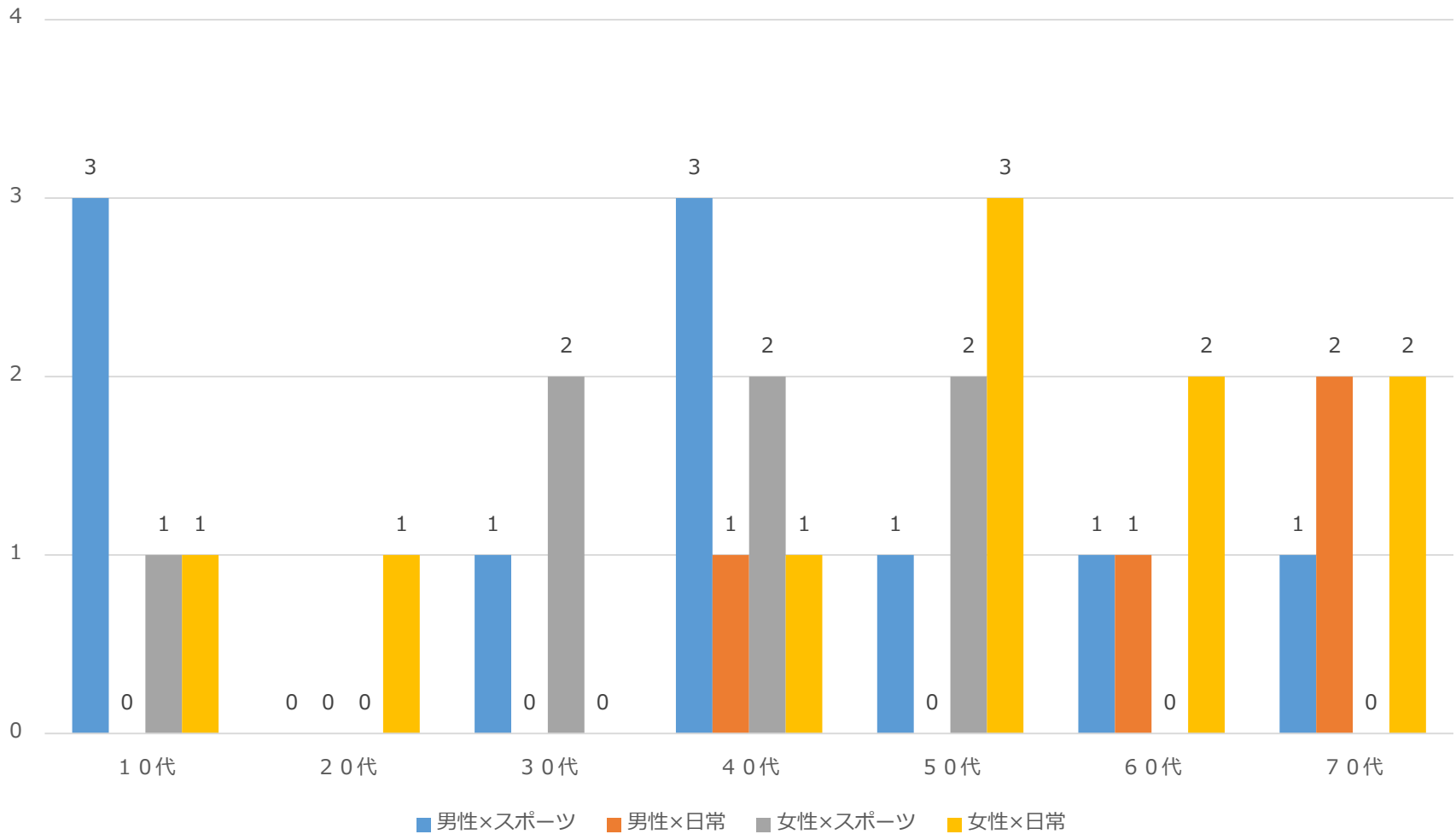


# 上腕二頭筋系データ

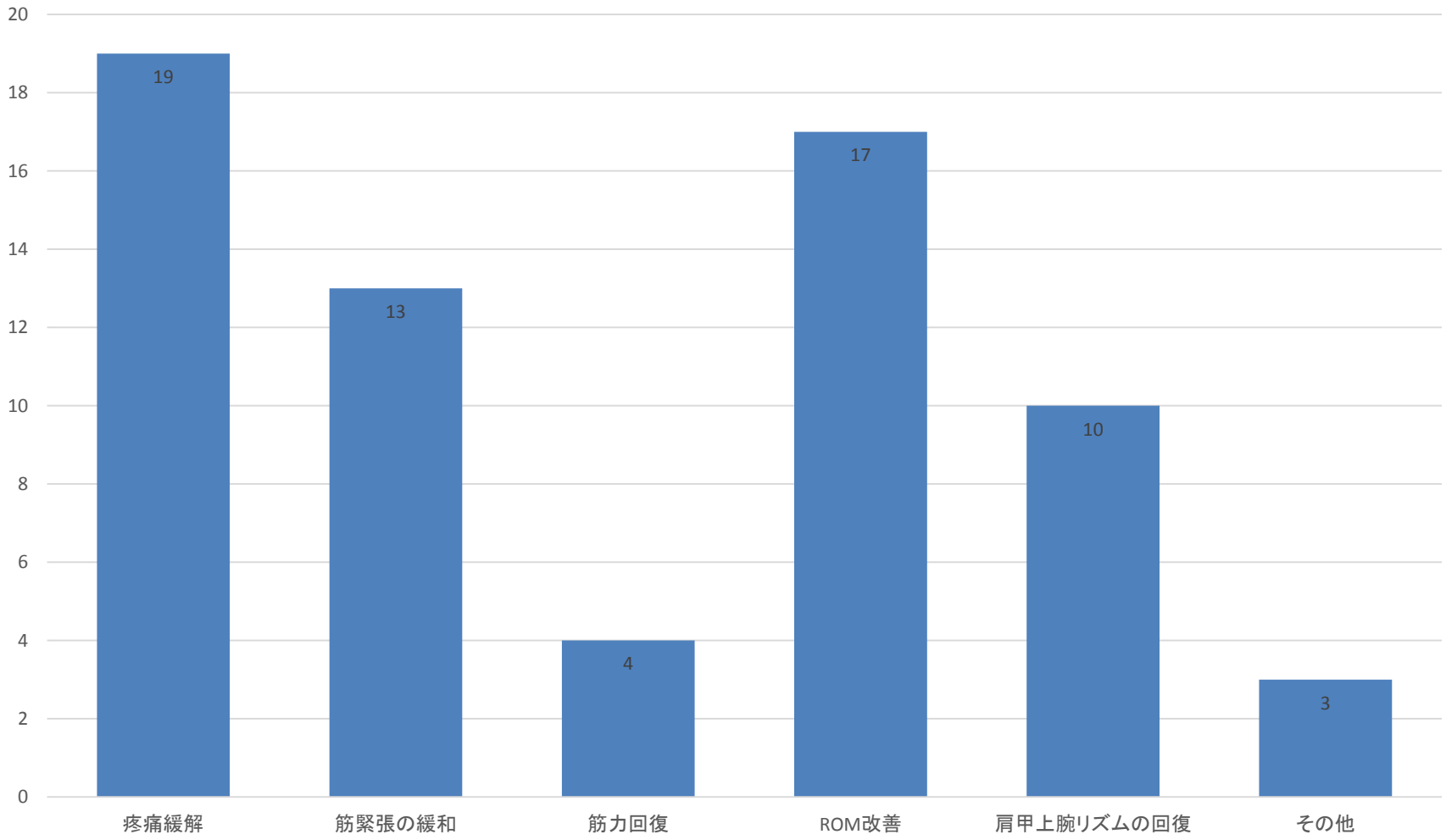
# 上腕二頭筋系テスト陽性を示した症例　（症例数：31）



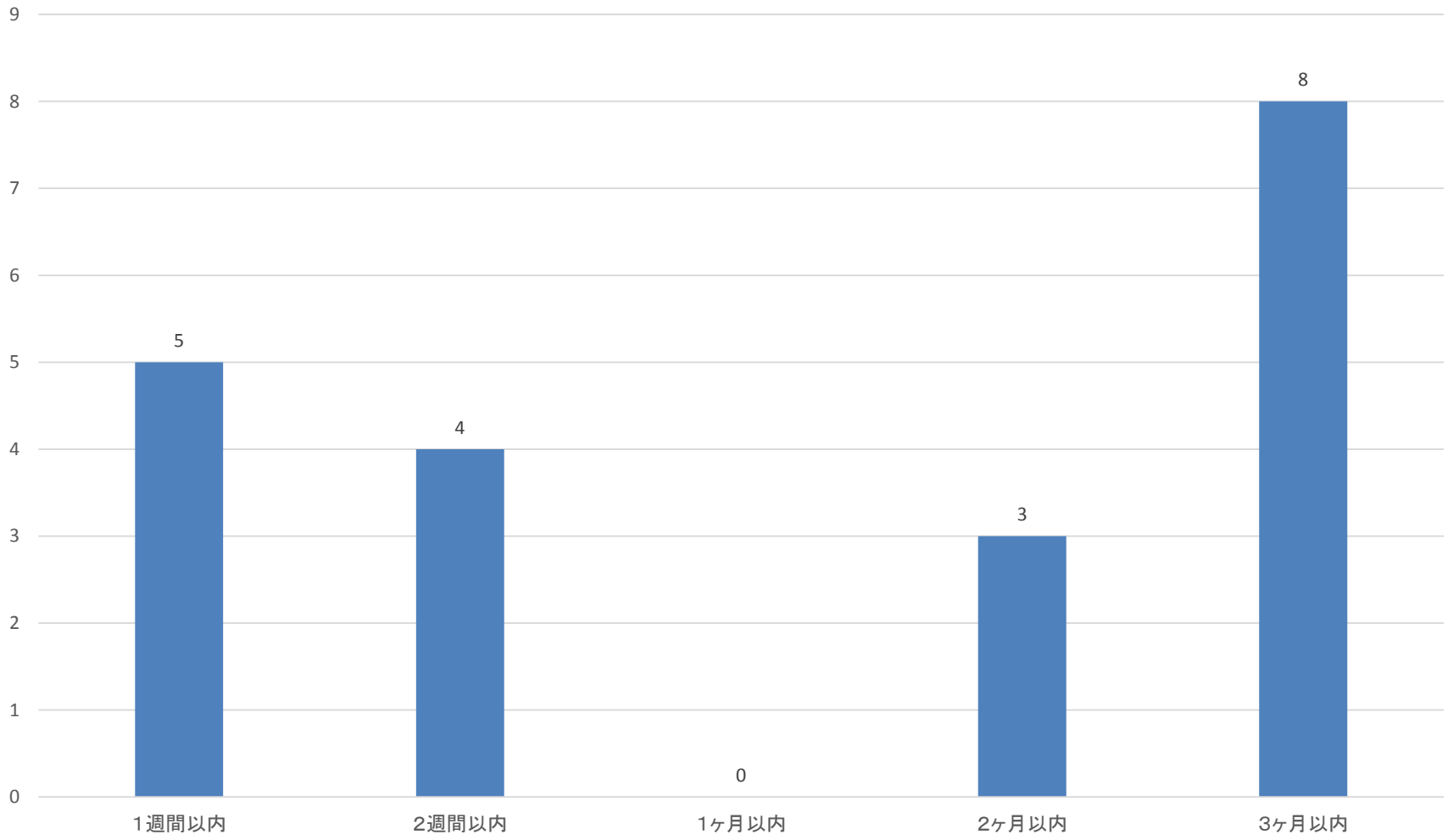
# 上腕二頭筋系　年代・性別×受傷パターン



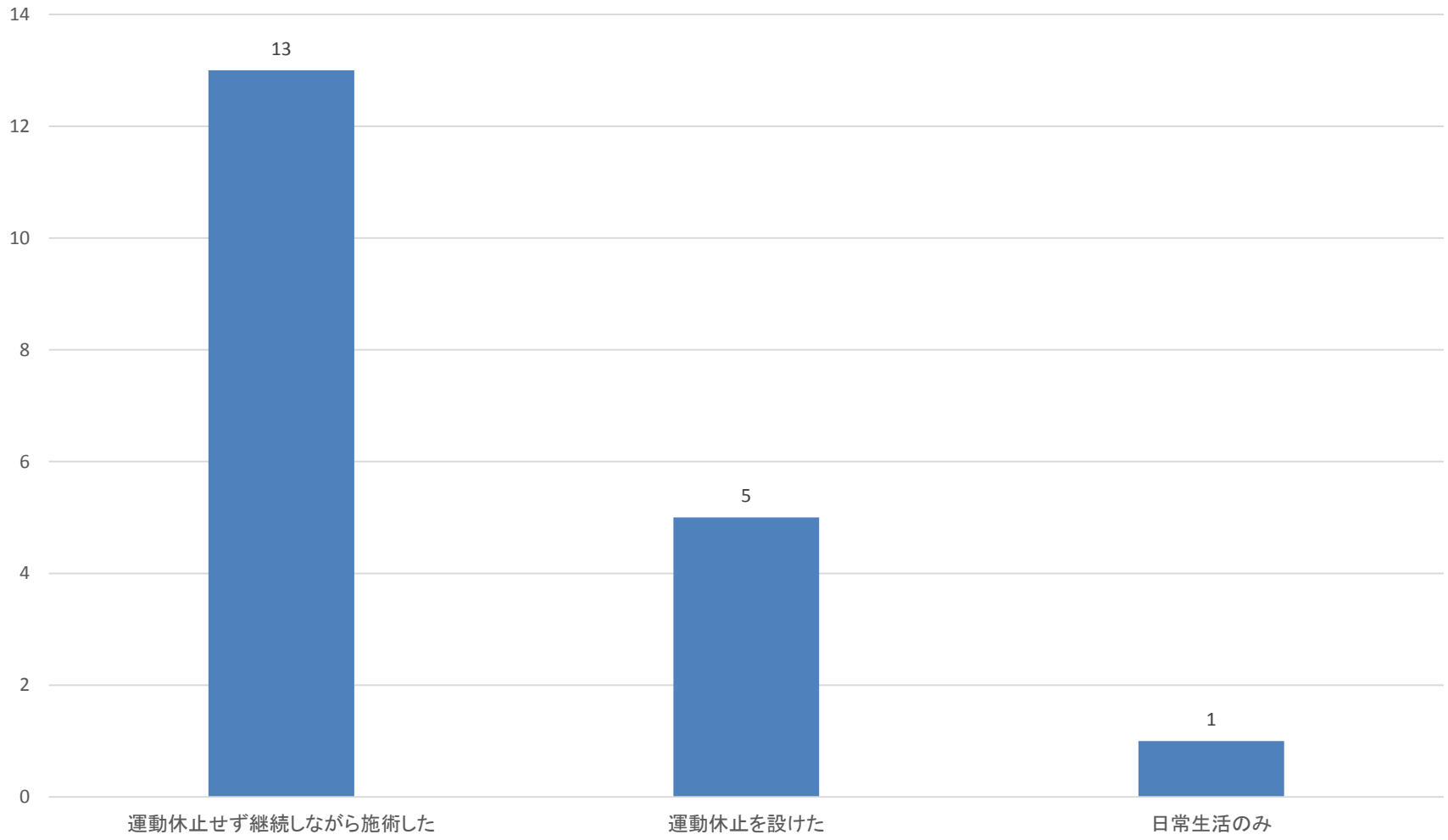
# 上腕二頭筋系　施術方針


20
18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
19
13
4
17
10
3
疼痛緩解
筋緊張の緩和
筋力回復
ROM改善
肩甲上腕リズムの回復
その他

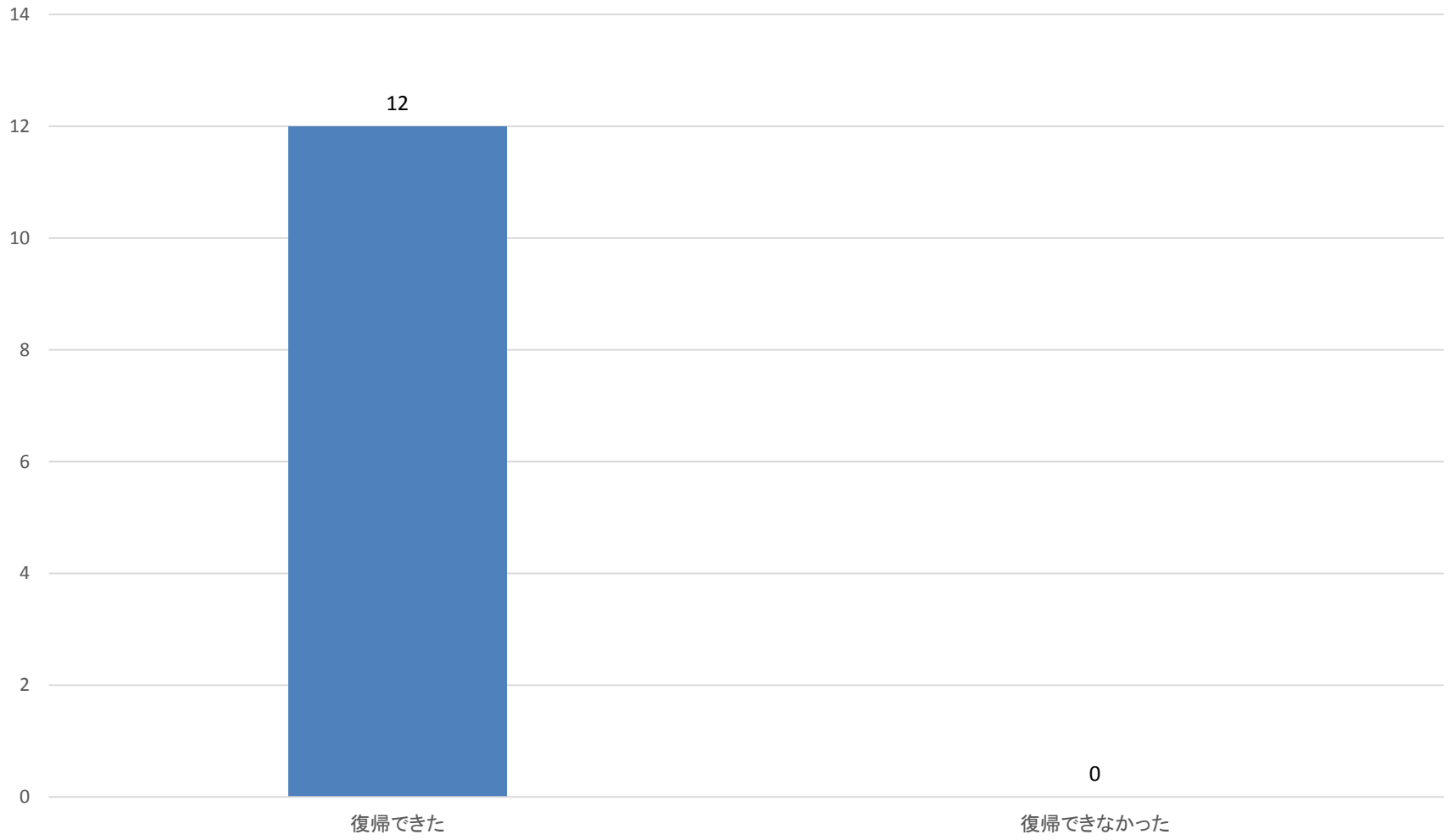
# 上腕二頭筋系　フォロー期間 （有効回答：２０例）



# 上腕二頭筋系　運動休止状況　（有効回答：19例）

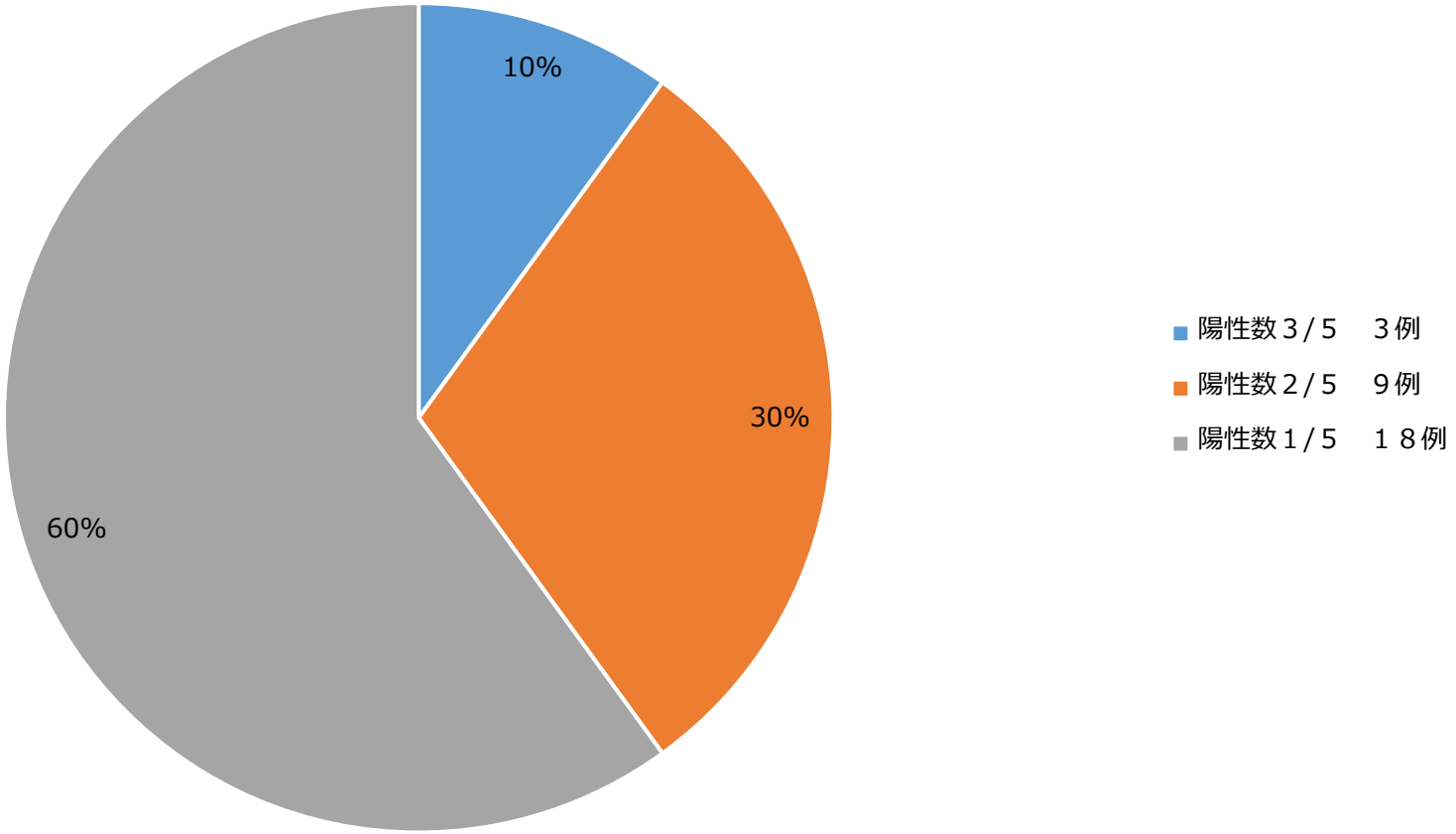


# 上腕二頭筋系　復帰 （有効回答：１２例）

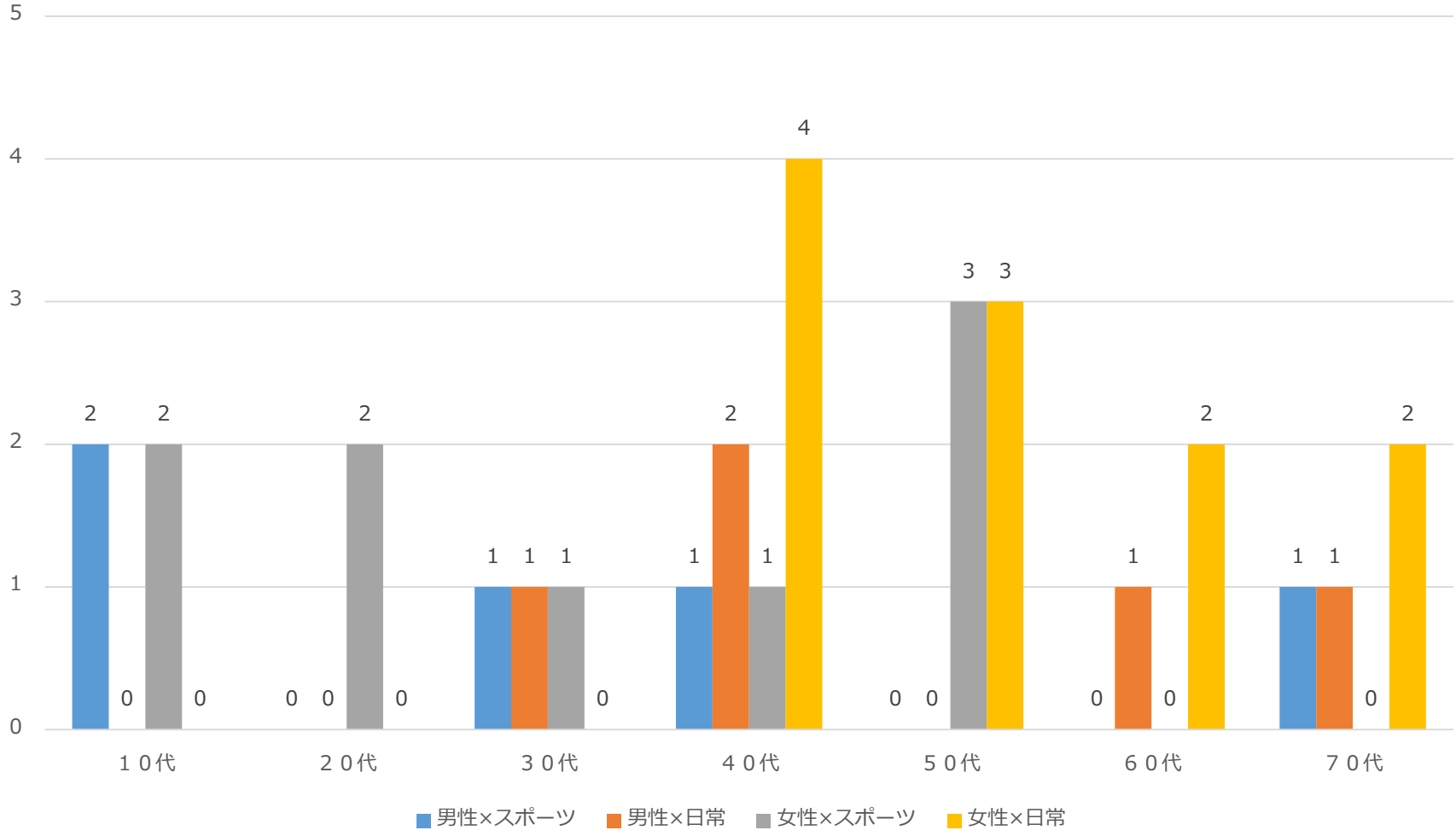


# 滑液包脱臼系データ

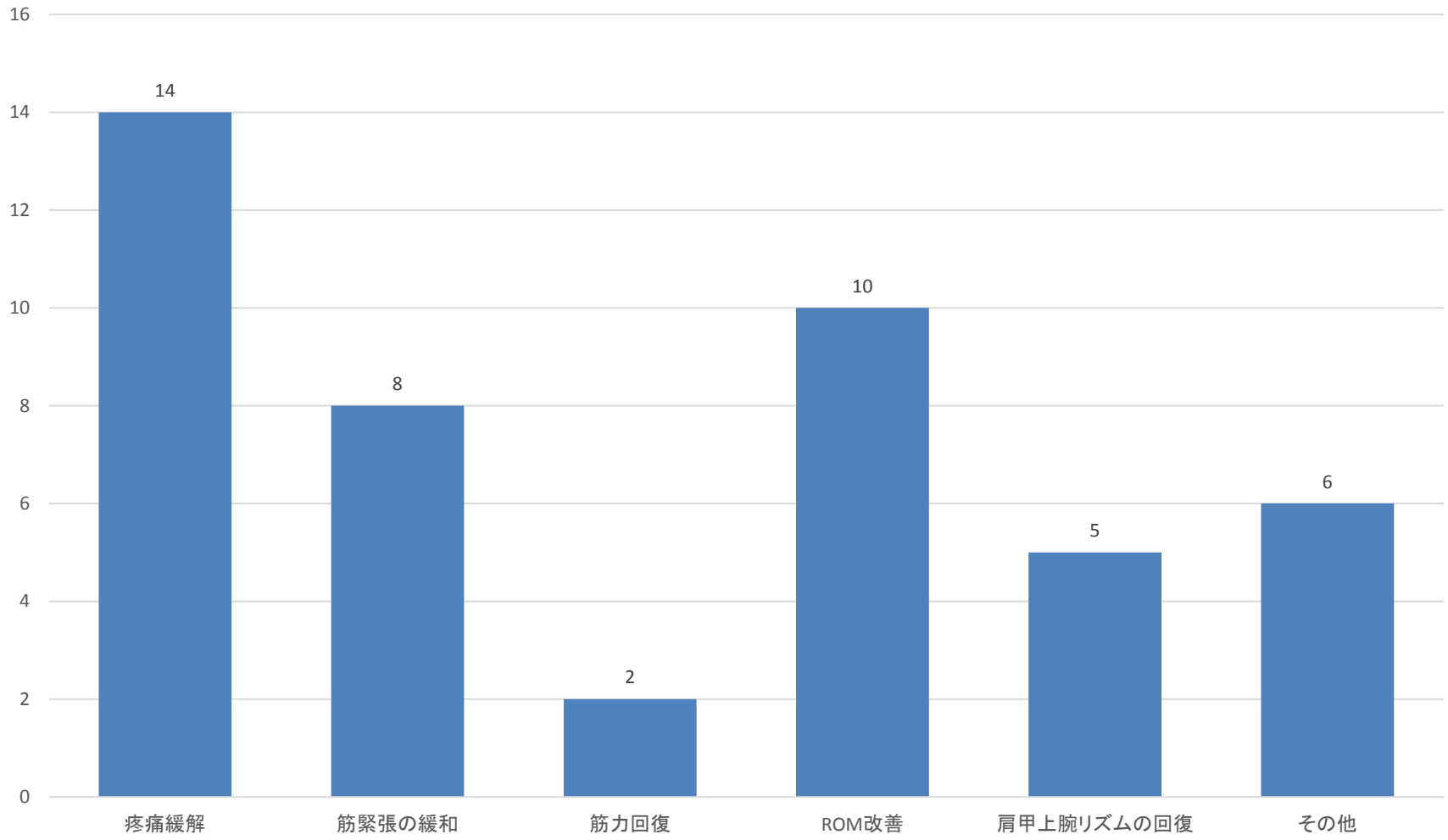
## 滑液包脱臼系テスト陽性を示した症例　（症例数：３０）



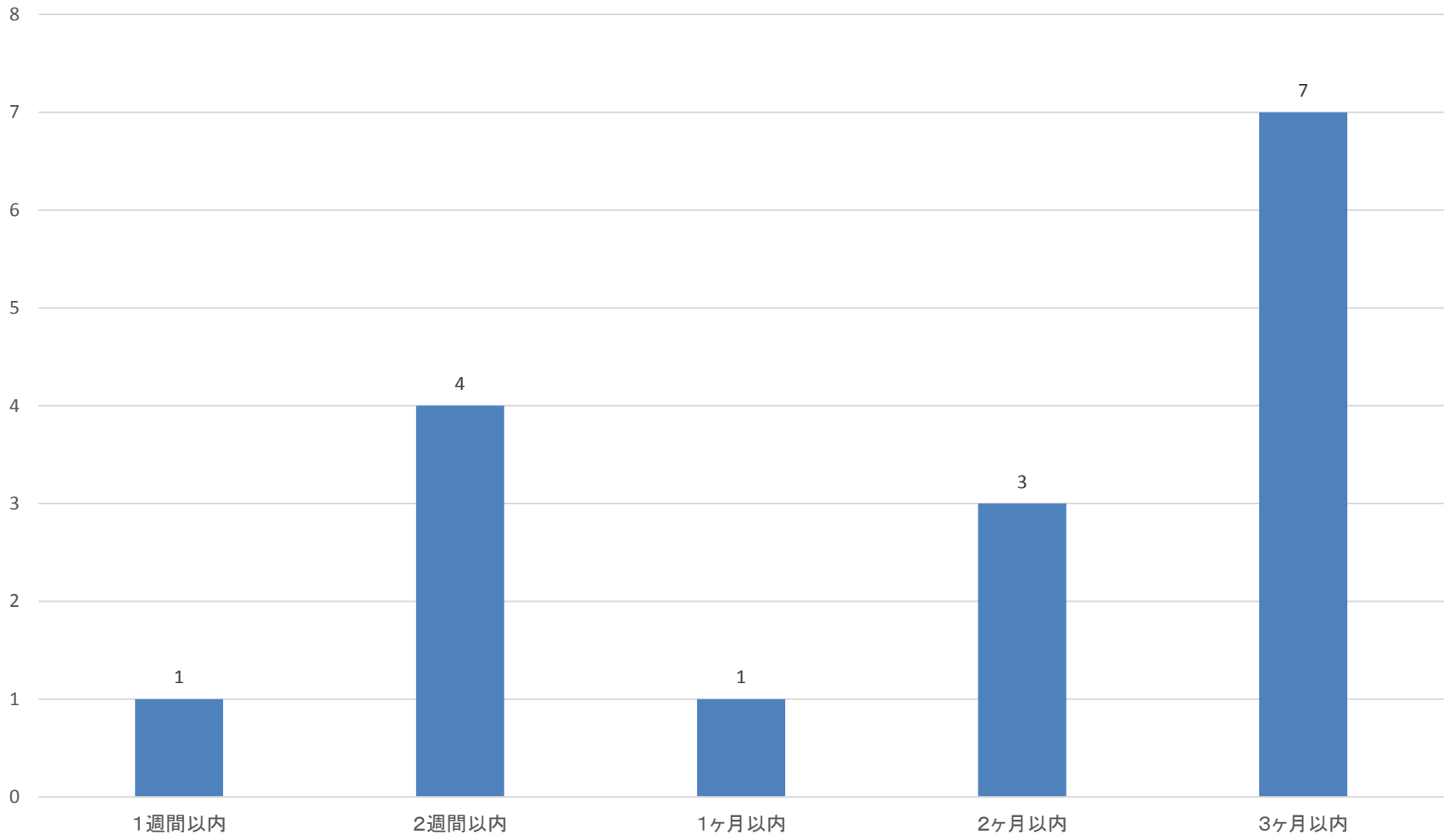
# 滑液包脱臼系　年代・性別×受傷パターン



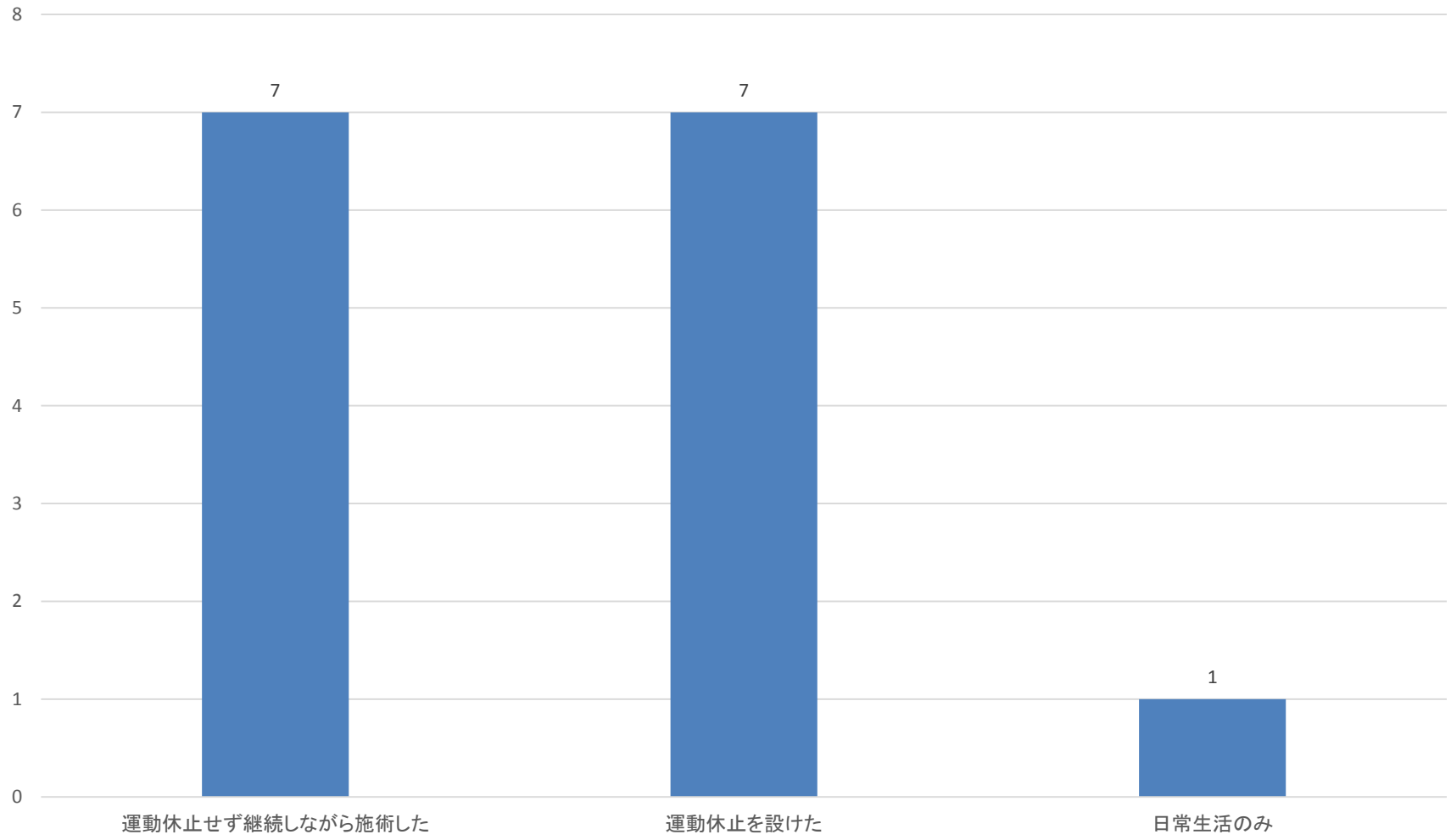
# 滑液包脱臼系　施術方針


16
14
12
10
8
6
4
2
0
14
8
2
10
5
6
疼痛緩解
筋緊張の緩和
筋力回復
ROM改善
肩甲上腕リズムの回復
その他

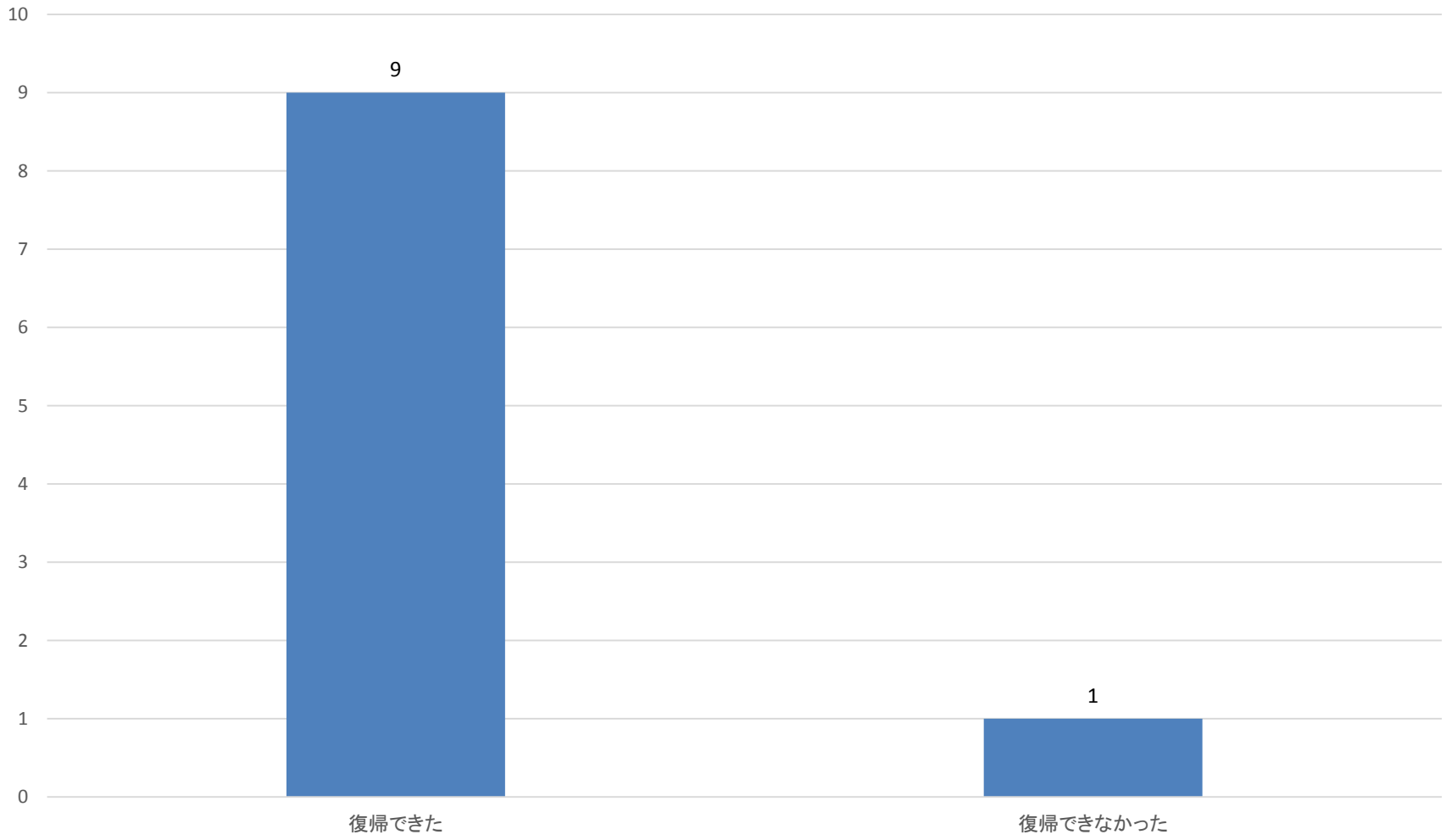
# 滑液包脱臼系　フォロー期間　（有効回答：16例）



# 滑液包脱臼系　運動休止状況　（有効回答：15例）

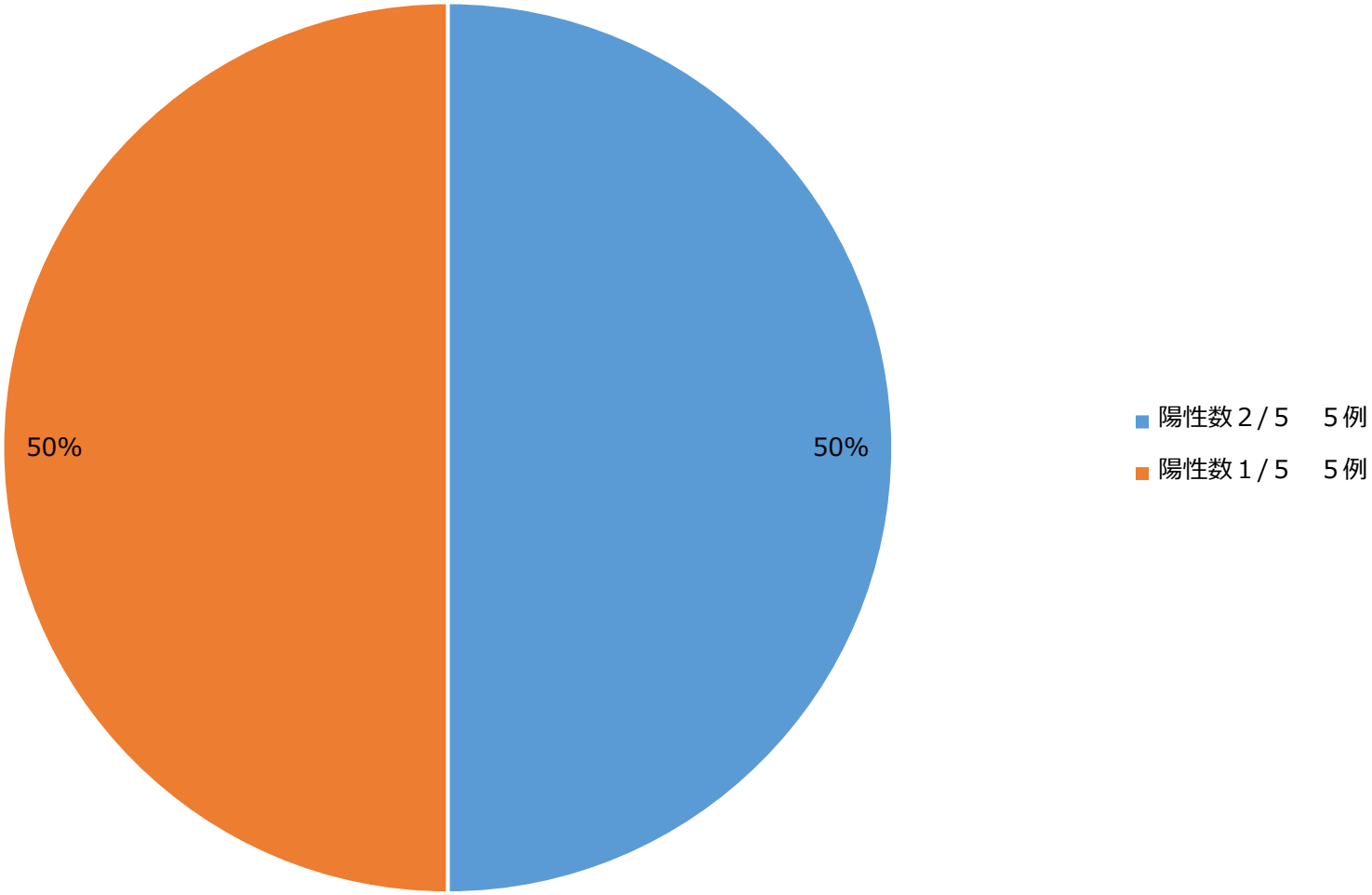


# 滑液包脱臼系　復帰　（有効回答：10例）

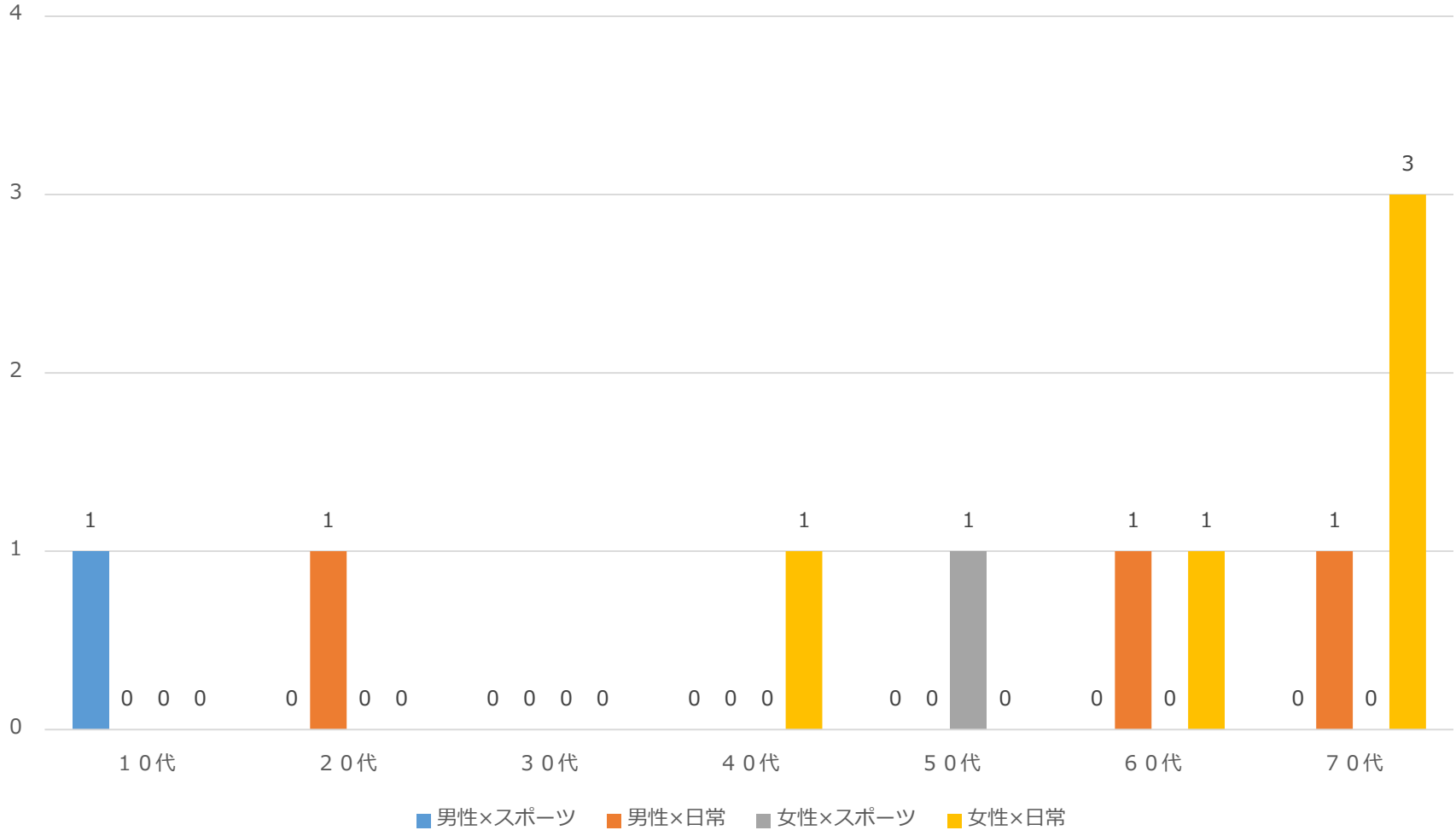


# 弛緩不安定系データ

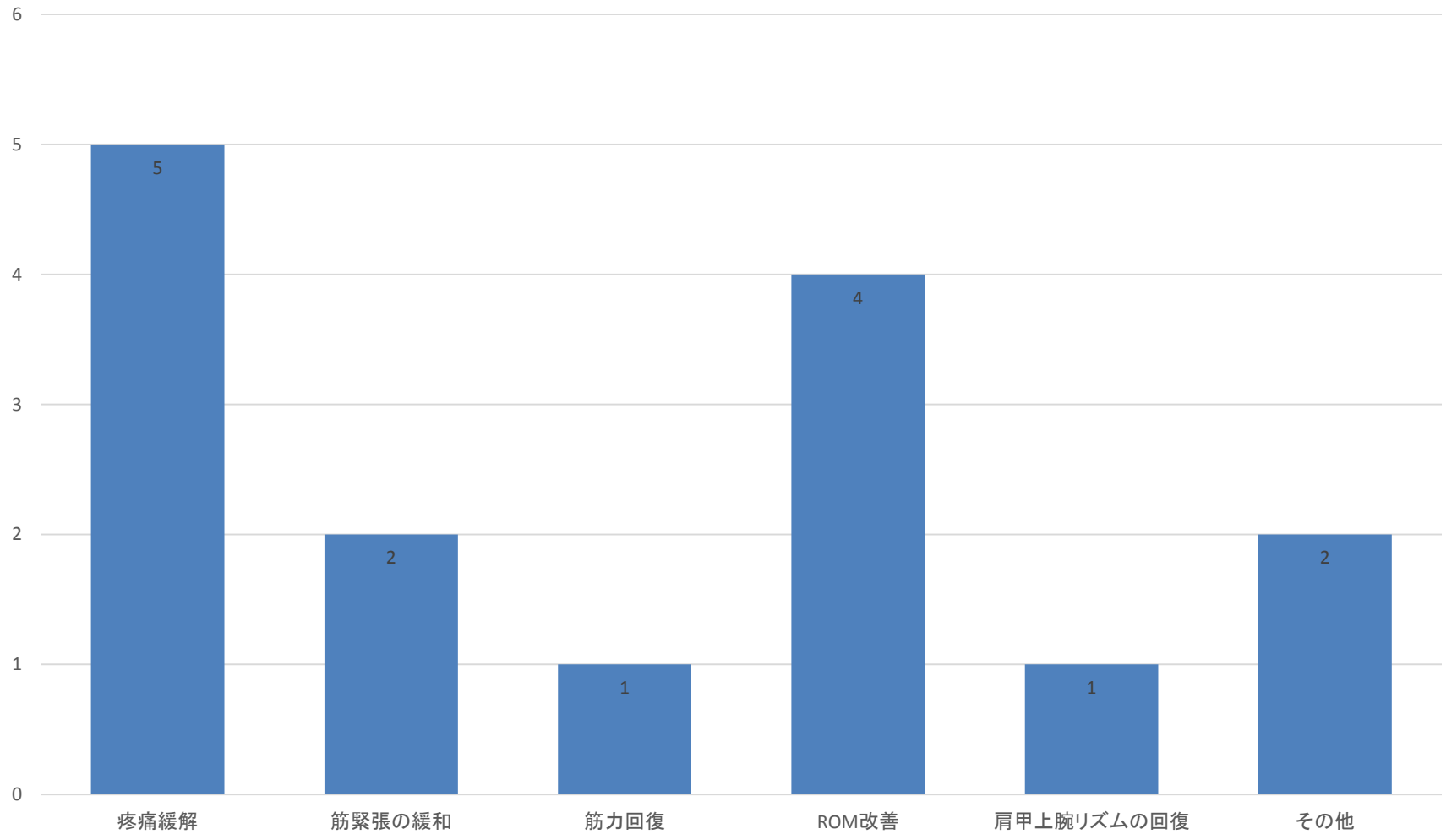
# 弛緩不安定系テスト陽性を示した症例　（症例数10例）



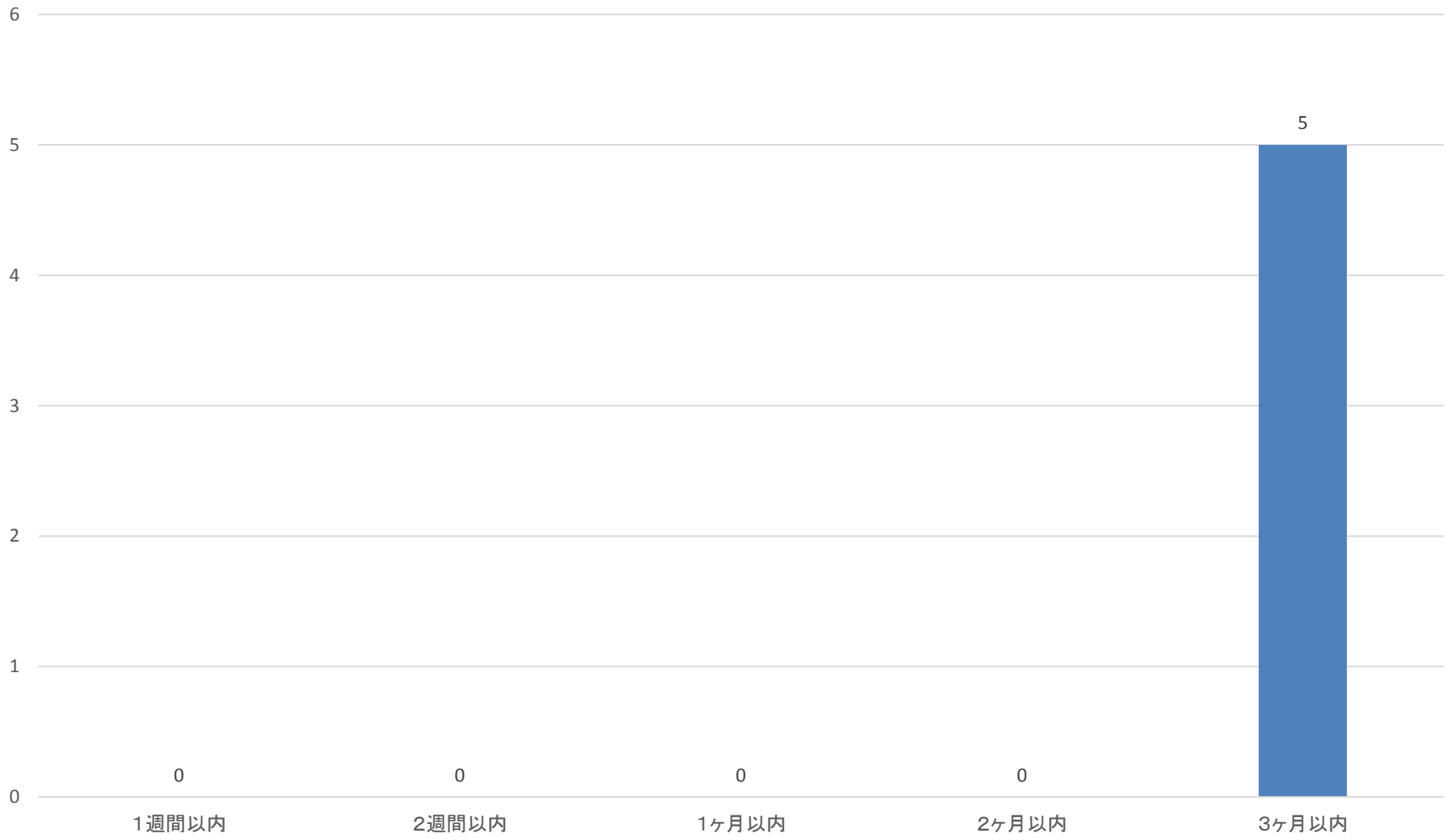
# 弛緩不安定系　年代・性別×受傷パターン



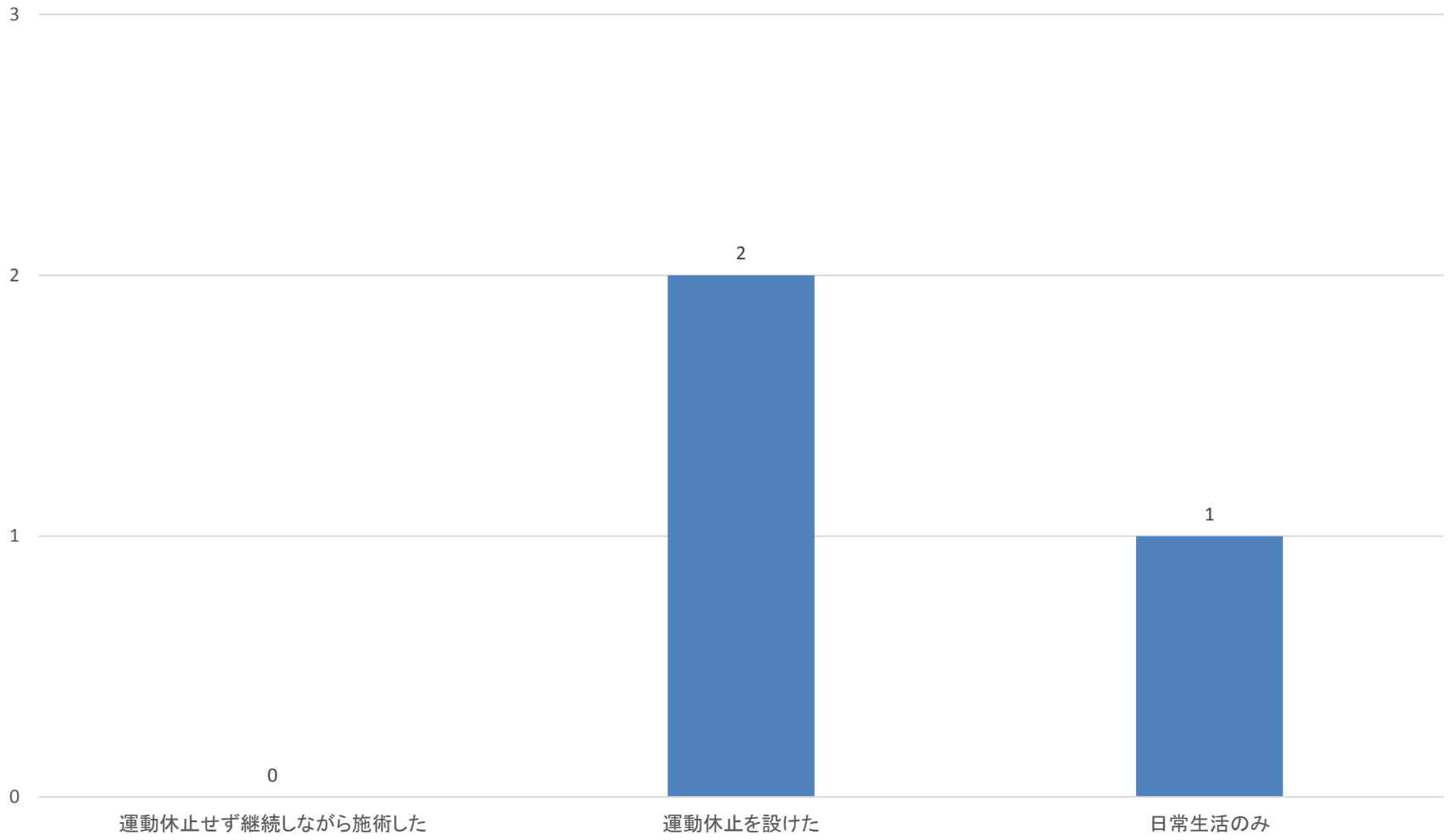
# 弛緩不安定系　施術方針



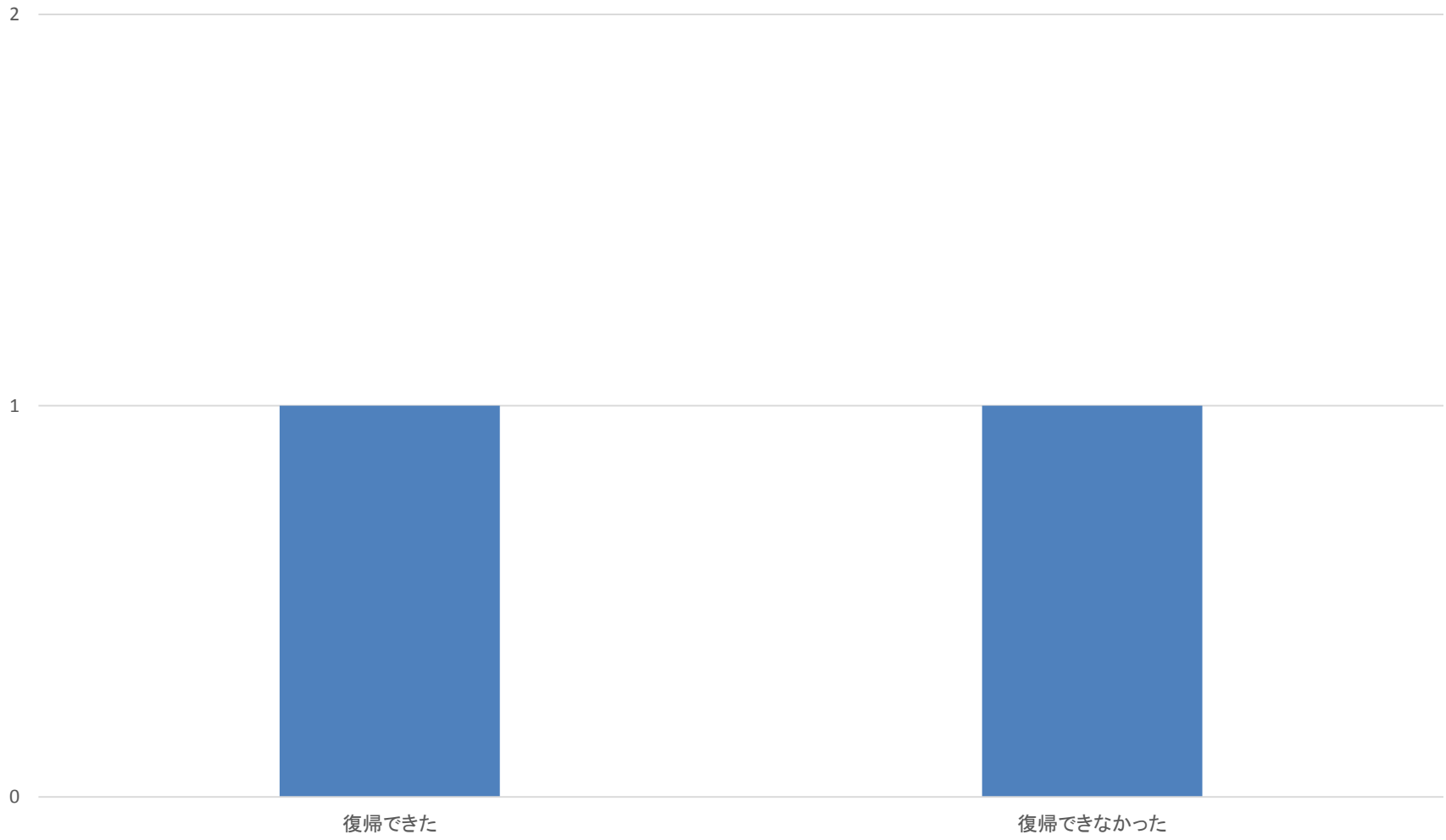
# 弛緩不安定系　フォロー期間　（有効回答：5例）



# 弛緩不安定系　運動休止状況（有効回答：3例）

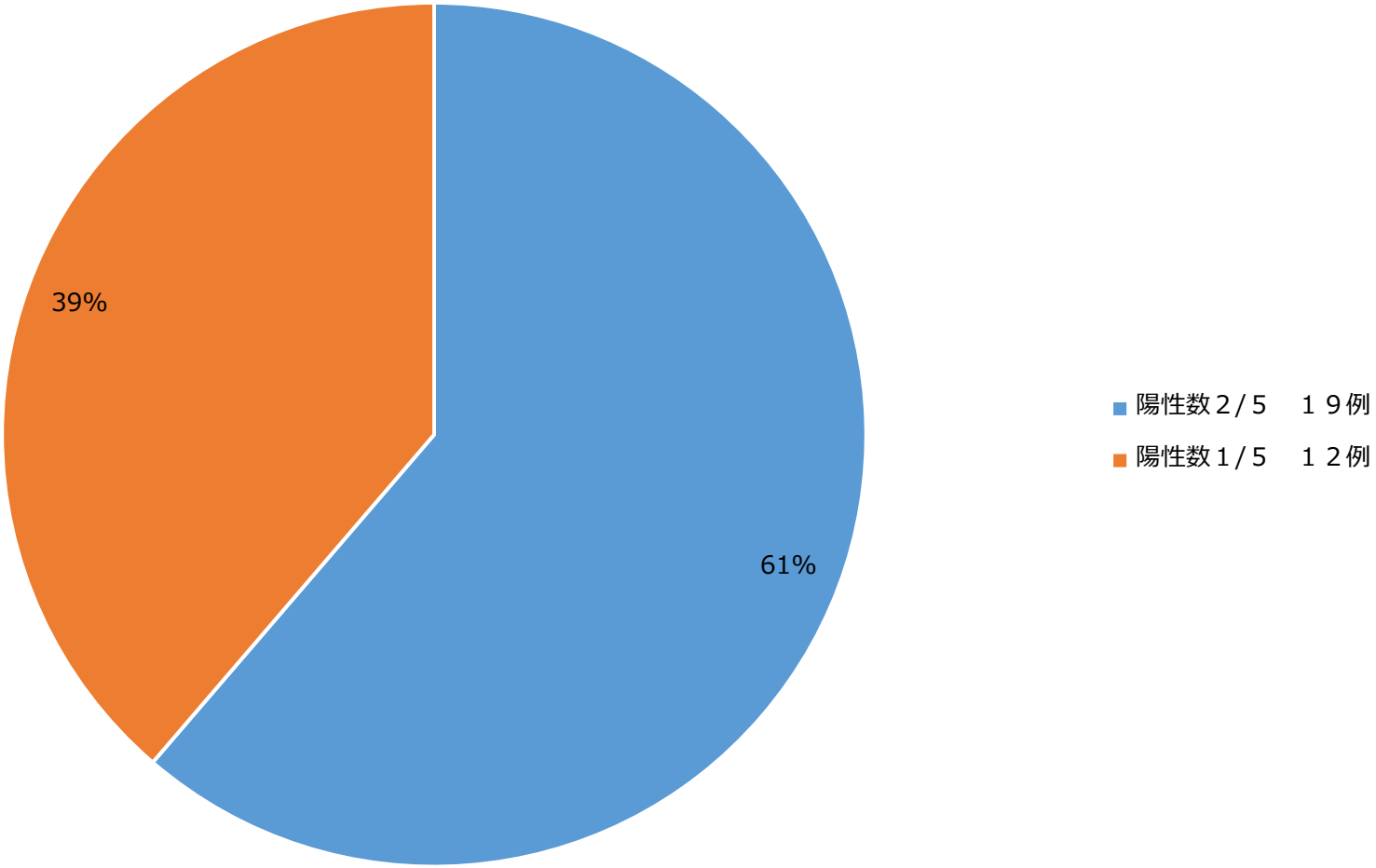


# 弛緩不安定系　復帰（有効回答：2例中）

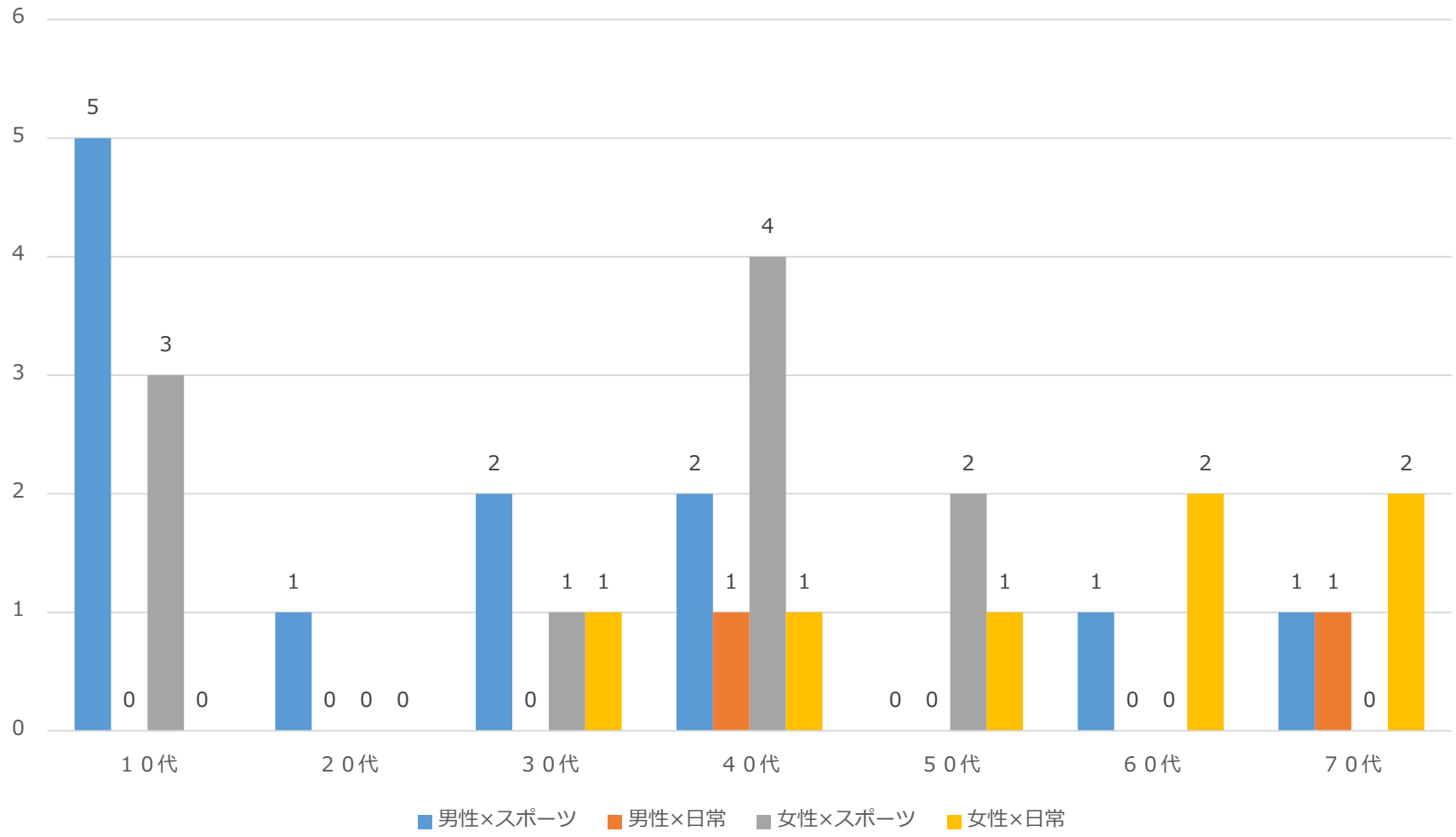


# 投球障害系データ

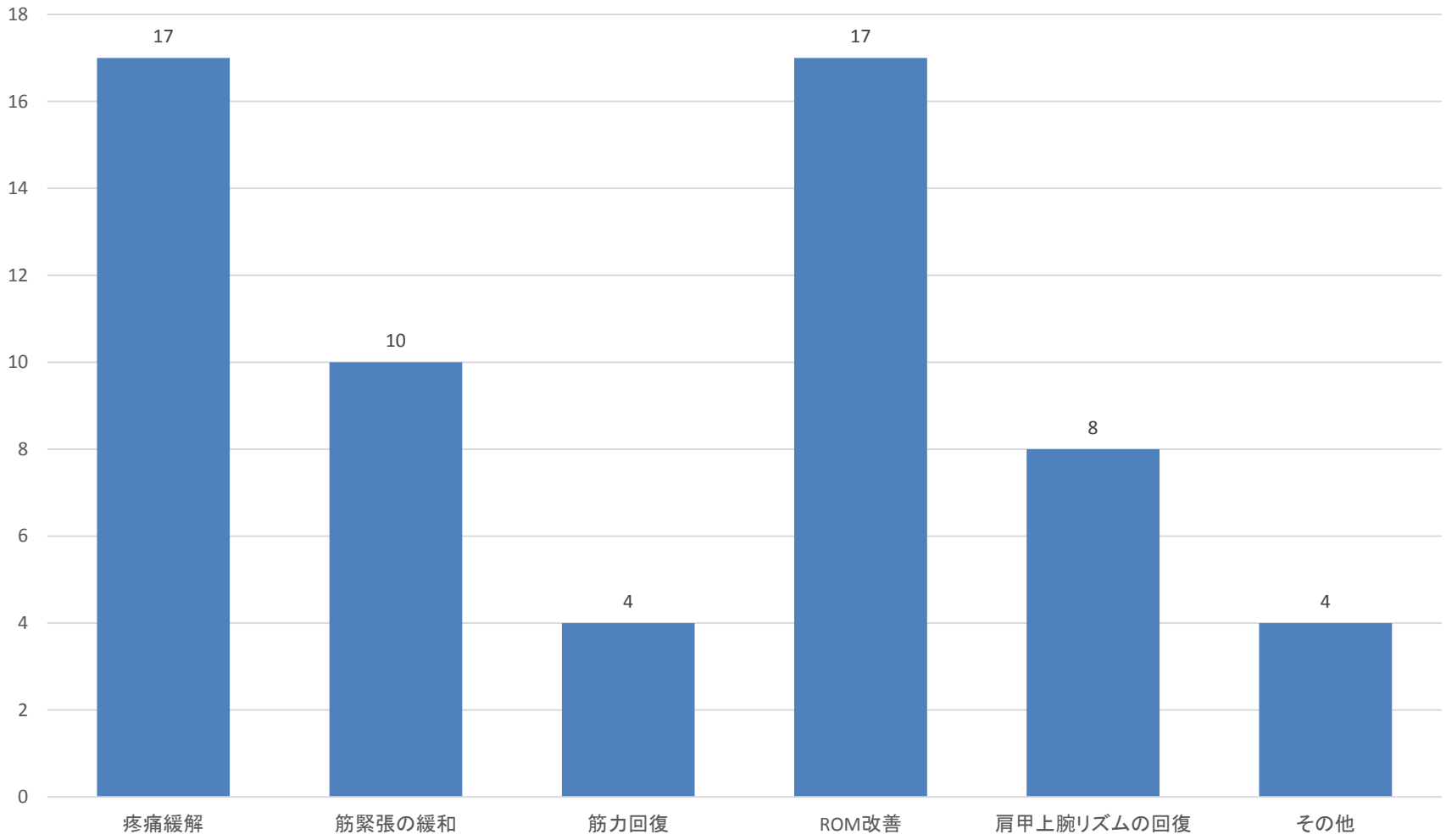
# 投球障害系テスト陽性を示した症例（症例数：31）



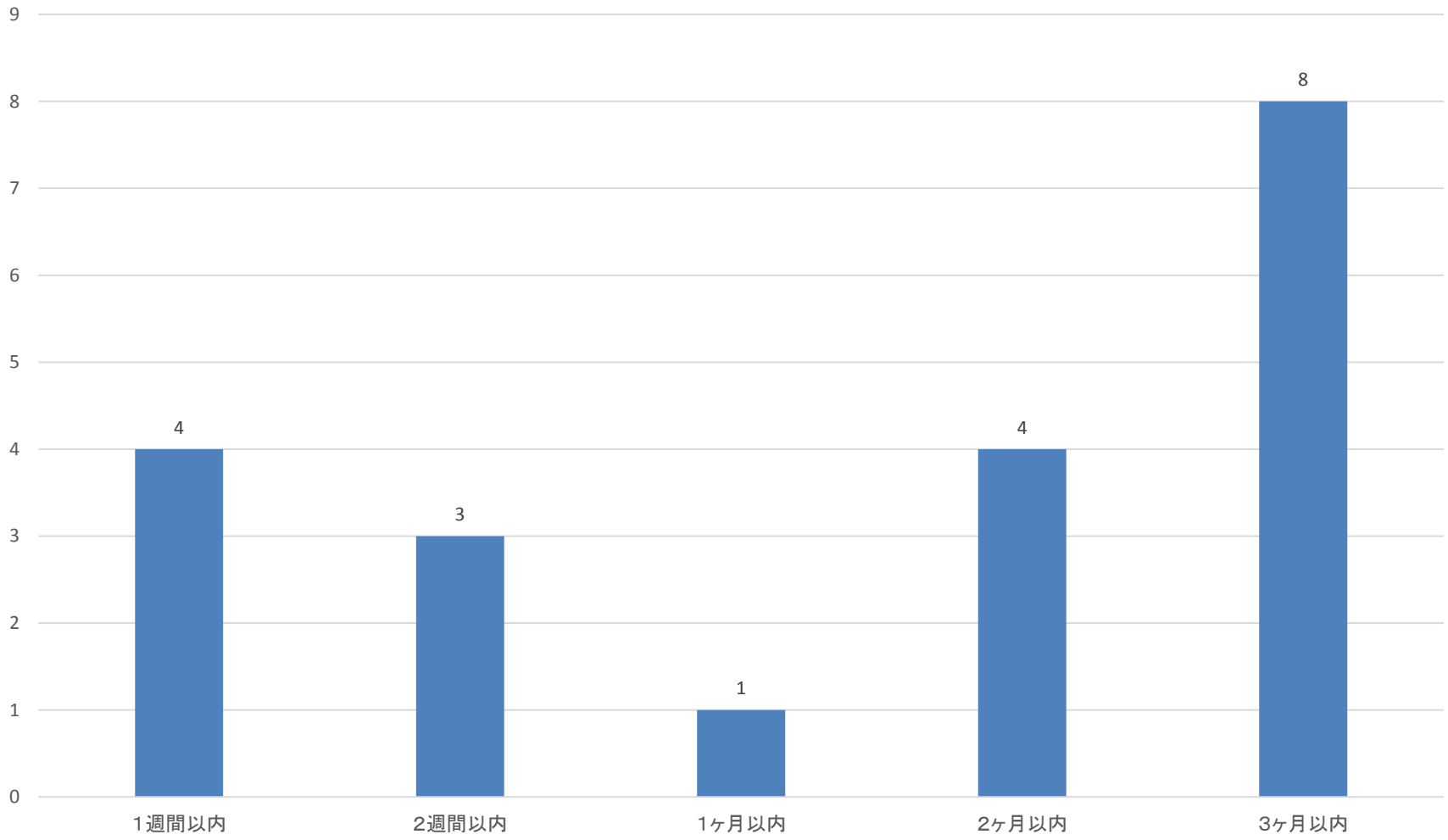
# 投球障害系　年齢・性別×受傷パターン



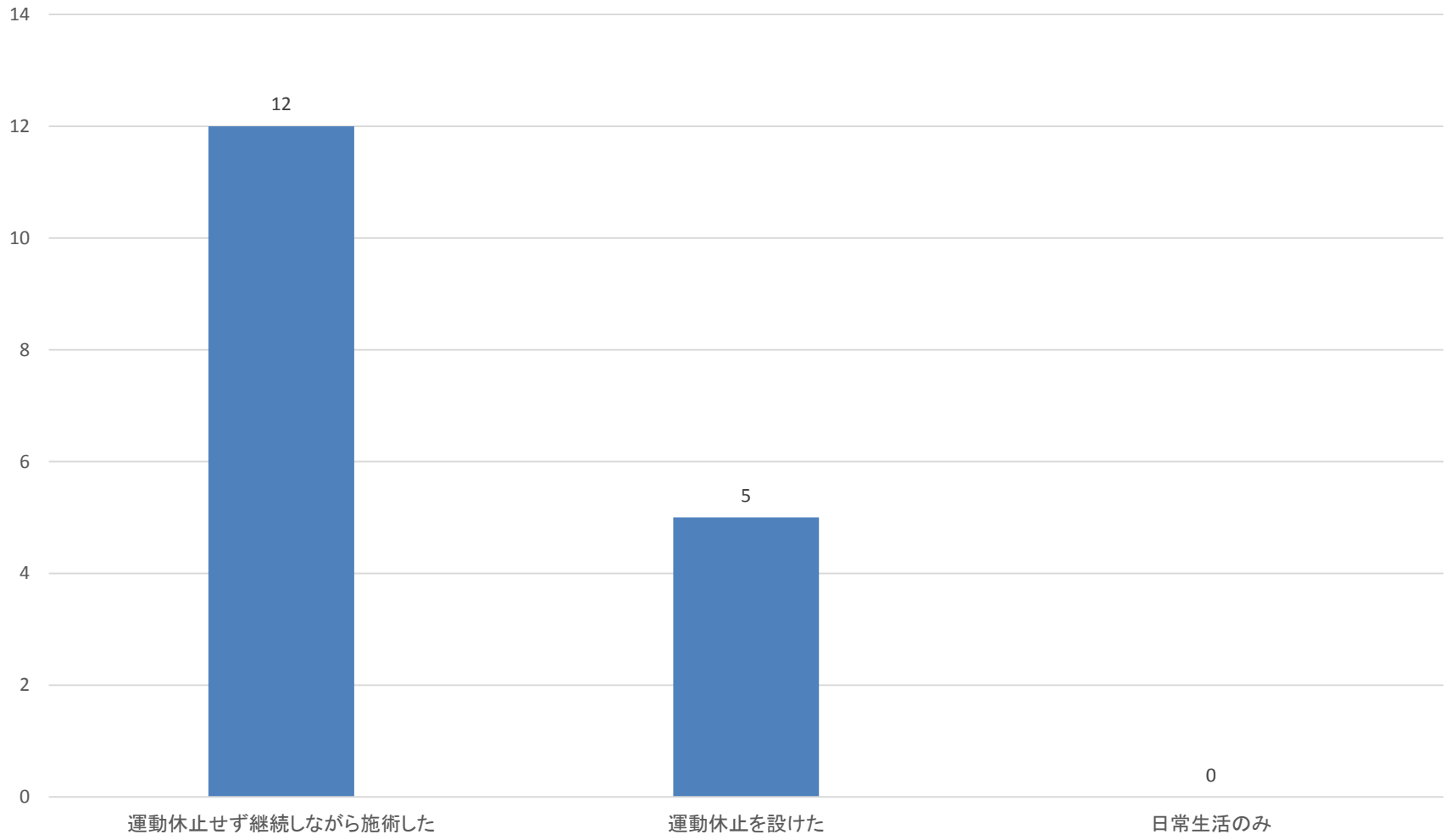
# 投球障害系　施術方針


18
16
14
12
10
8
6
4
2
0
17
10
4
17
8
4
疼痛緩解
筋緊張の緩和
筋力回復
ROM改善
肩甲上腕リズムの回復
その他

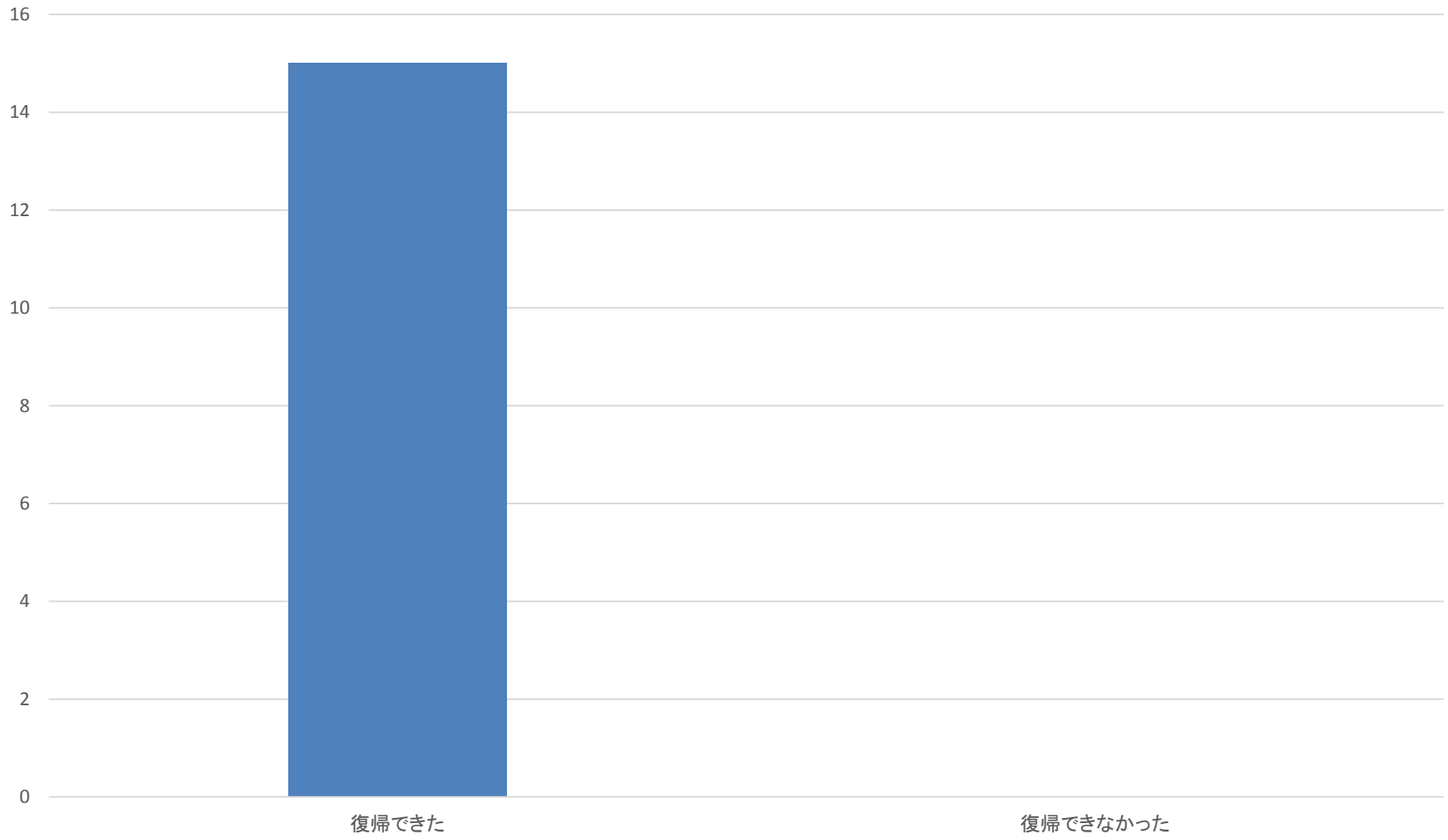
# 投球障害系　フォロー期間　（有効回答：20例）



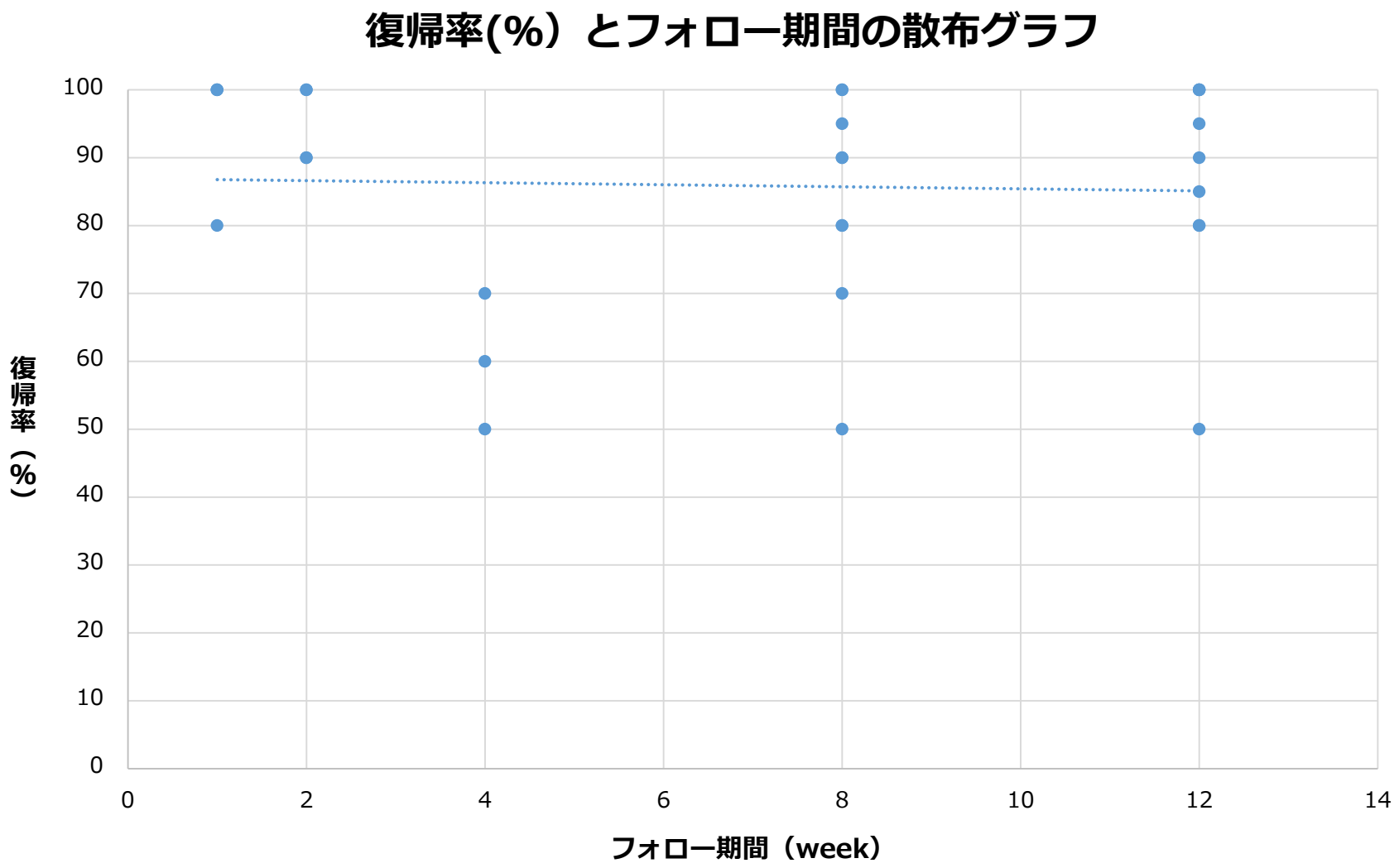
# 投球障害系　運動休止状況　（有効回答：17例）



# 投球障害系　復帰　（有効回答：15例）

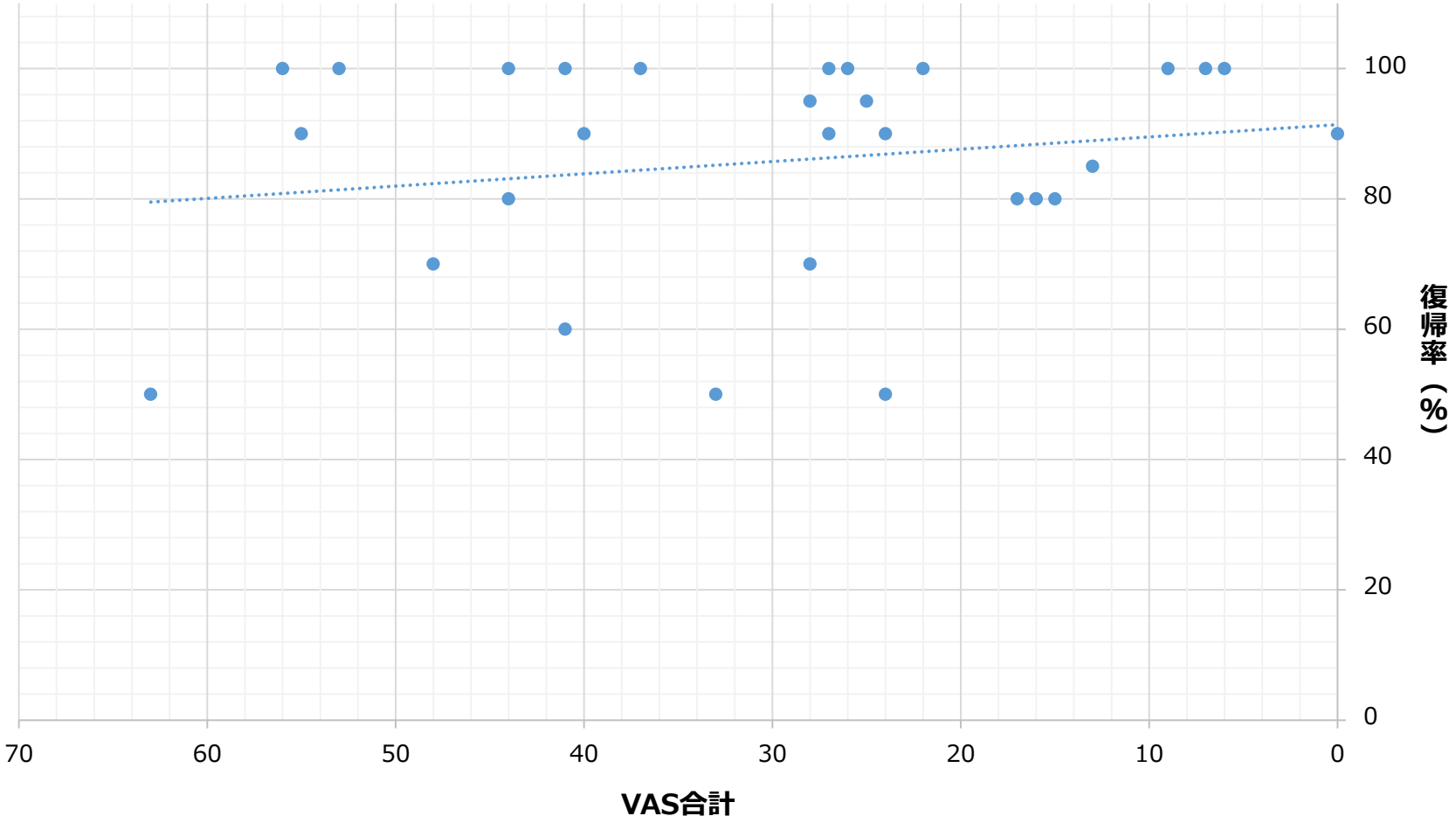


# 全体の分析まとめ

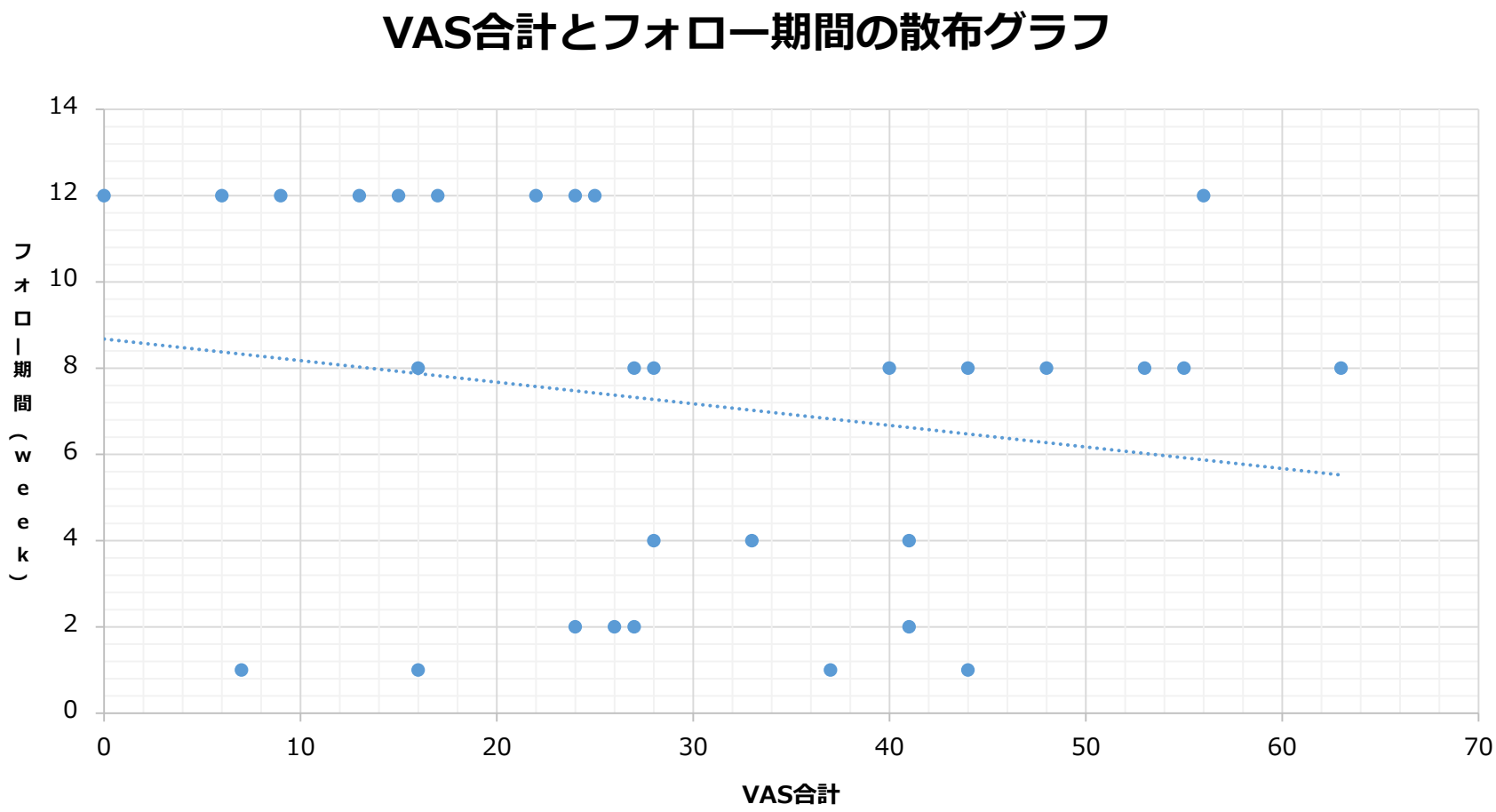



- フォロー期間と復帰率の関連性は特にみられなかった

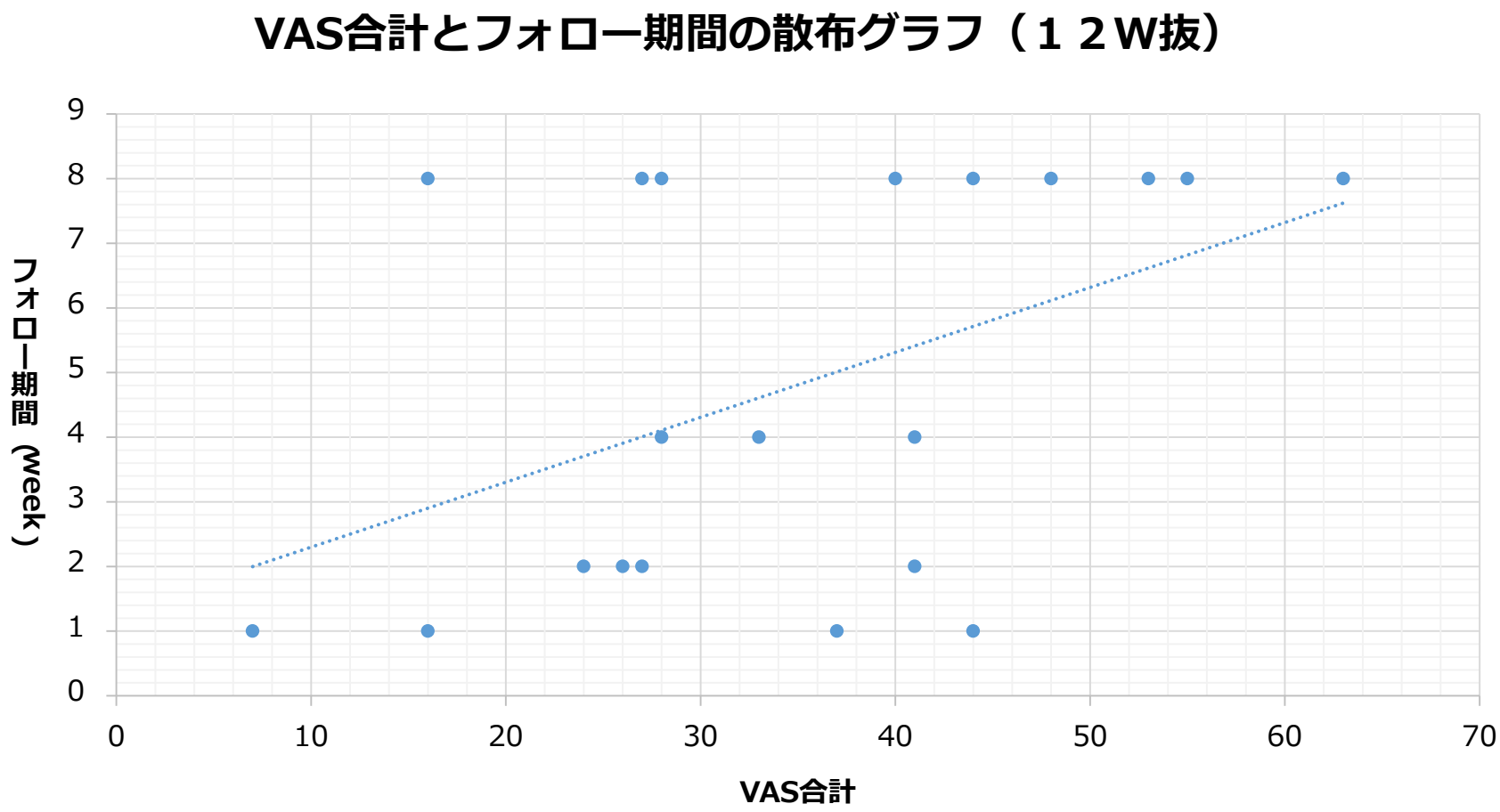
## 復帰率(%）とVAS合計の散布グラフ




- 若干ではあるがVASが低い方が復帰率が高くなる傾向



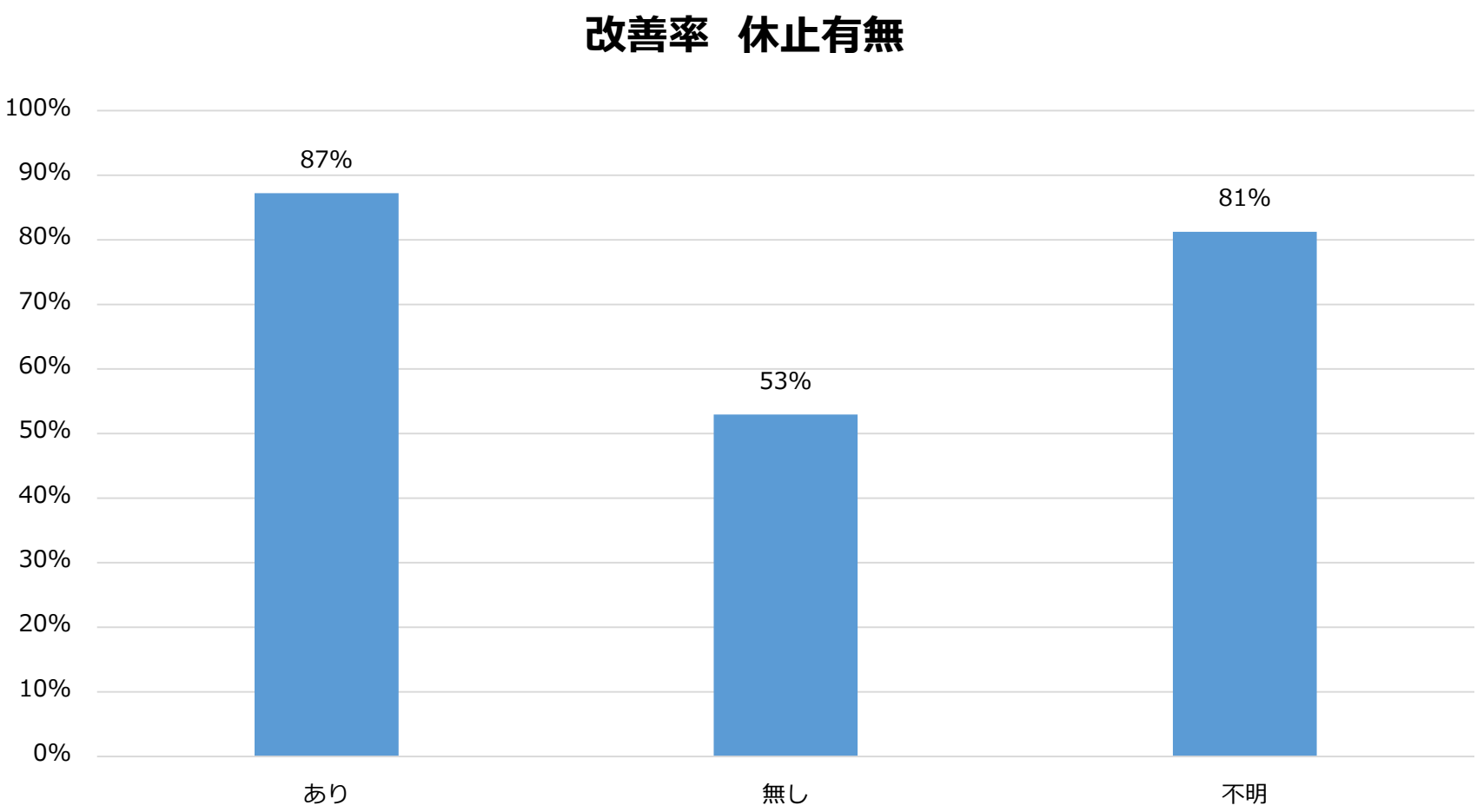

- VASとフォロー期間の相関性は、回帰線のVASが低い方がフォロー期間が長くなる傾向がみられた。



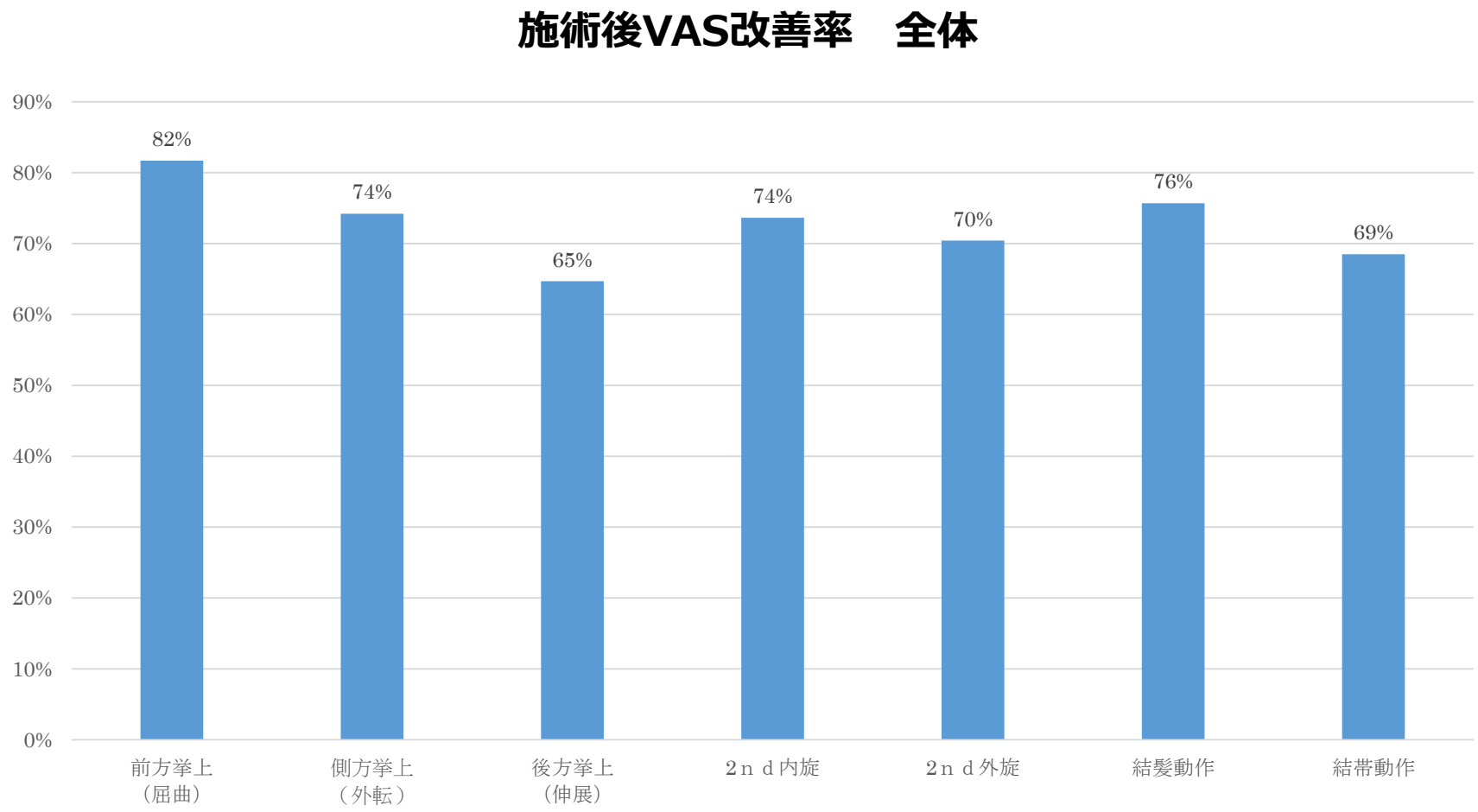

- 12週を除外したデータでは、VASとフォロー期間は正の相関がみられた。

# 休止指導の有無毎の改善数

| | 休止 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | あり | 無し | 不明 | 総数 |
| 術前陽性 | 47 | 68 | 16 | 131 |
| 術後改善 | 41 | 36 | 13 | 90 |
| 術後変化無し | 6 | 32 | 3 | 41 |
| 陽性出現 | 0 | 3 | 0 | 3 |

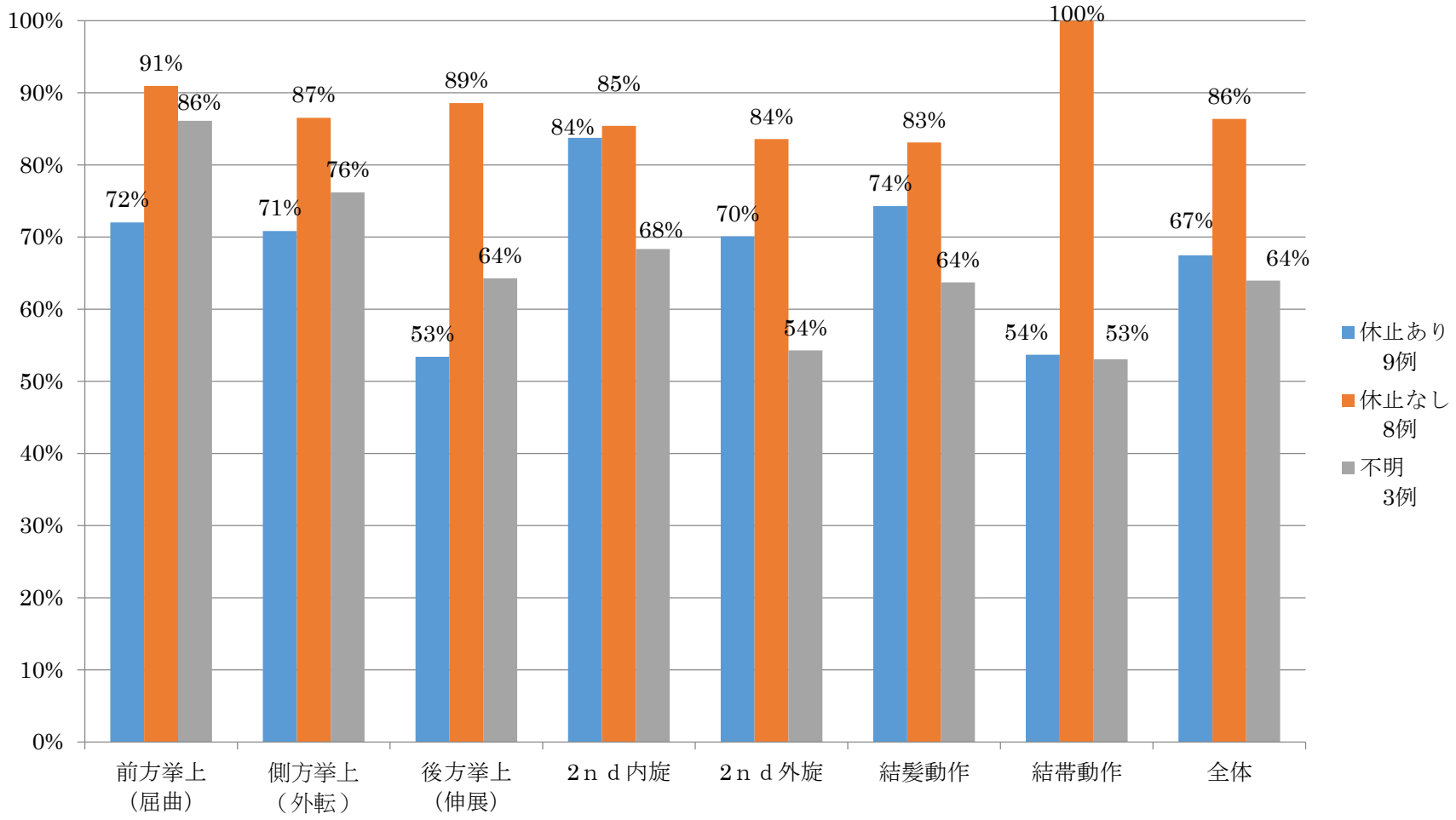



- 各検査陽性件数から施術後陰性になった件数を割合として算出した。
- 陽性改善率は休止有り87％、休止なしが53％と休止の指示を行った場合の改善率が高かった。




- （施術前VAS－施術後VAS）/施術前VASで改善率を出し、それぞれ平均を求めた。

# 休止指導の有無でのVAS改善率



# 全体まとめ

- 腱板損傷が最も多くみられる。
- 概ね40代での受傷が多く、40代女性スポーツ中、10代男性スポーツ中での受傷が多かった。
- 40代以降は日常動作での受傷をしやすい。

# 施術方針まとめ

- 疼痛緩解を第一選択、ROM改善を第二選択としている。

- 筋緊張の緩和、筋力回復、肩甲上腕リズムの改善は、上位の二選択の改善目的等で選択されていると考えられる。

# 復帰率・フォロー期間・VAS合計の相関性まとめ

- 復帰率：フォロー期間に強い相関性は認められない。
- 復帰率：VAS合計に強い相関性は認めらないが、
  VASが少ない方がやや復帰率が高い
- VAS合計：フォロー期間は12週を除くと、
  強い正の相関性がある。

# 休止指導の有無と改善率

- 改善率の指標

  A : 検査陽性から陰性への変化数

  B : （施術前VAS－施術後VAS)÷施術前VAS

- 上記の2項目で調べた結果

  A：休止有りで改善率が高い

  B：休止無しで改善率が高い

今後も、当会 研究事業部の
事業に、ご理解ご協力の程
よろしくお願いいたします。